

緑釉陶器にみる古代上野国

神 谷 佳 明

- | | |
|--------------|------------|
| 1 はじめに | 4 出土遺跡について |
| 2 県内出土の緑釉陶器 | 5 おわりに |
| 3 出土した遺構について | |

—— 要 旨 ——

本稿では群馬県内から出土する緑釉陶器について集成し、出土遺跡・出土遺構について分析を行った。こうしたことで緑釉陶器が古代上野国へ搬入された様相や派生した結果について明らかにすることができた。

上野国内から出土した緑釉陶器は周辺地域と比較すると生産地から地理的条件が同様である相模、武蔵とは出土量、器種、年代などの出土傾向は同様である。これに対して生産地に隣接した信濃では量、器種などで上野を上まわっており、上野以北の下野では緑釉陶器出土が国府や男体山、国分寺など官衙、寺院など限られているためか上野を下まわっている。こうした出土状況は信濃や上野では集落遺跡からの出土が多いことに要因がある。このことは緑釉陶器から当時の流通機構の規模だけでなく上野の位置づけを考えさせられる結果であった。

上野での出土分布は国府のおかれた古代群馬郡群馬郷を中心にした傾向がみられ、群馬郷ではその縮小版的傾向がみられた。

緑釉陶器を出土した遺構については住居、土坑墓、祭祀について検討した。住居では生産年代と住居の時期が比較的近い関係であることから緑釉陶器は非日常的食膳具であるが継承されたものは少ないことが解った。そうしたことは出土例は少ないが土坑墓からの検討で緑釉陶器が個人に属する銘名器であったと言える。さらに祭祀遺構では山王廃寺の例などから県内で見つかっている灰釉陶器瓶、碗、段皿を出土する住居の性格について検討し、これらの居住者が仏教法要に係わったものであることを明らかにした。

出土遺跡では特に集落遺跡においてその集落の成立過程の検討と出土量から律令制崩壊後の開発集落では中央の権門との関係を指摘した。

こうして緑釉陶器をとらえて律令制崩壊後の上野の様相を一端を明らかにした。

キーワード

対象時代 平安時代

対象地域 群馬(古代上野国)

研究対象 緑釉陶器

1 はじめに

筆者は、1992年に刊行された研究紀要11で綿貫邦男・桜岡正信等と「群馬県出土の灰釉陶器の様相について(1)」と題して緑釉陶器も含めて県内出土の施釉陶器について考察を行ったがその中心は猿投山編年の黒笹14号窯式期から黒笹90号窯式期にかけてであり題目に(1)と称しているように後編を予定していた。しかし、筆者らの怠慢により筆を執らないままに10年近い月日が経過してしまい資料も膨大になり余計論を起こしにくくなってしまった。そうした中で筆者は群馬郡箕郷町の下芝五反田遺跡の整理業務や前橋市青梨子町下東西・清水上遺跡や前橋市下大屋町上西原遺跡等出土の施釉陶器について整理・検討する機会を得た。こうした機会を得た中で県内出土の緑釉陶器についてある程度の集成を行った。そして集成した緑釉陶器の一部については現奈良国立博物館学芸員の高橋照彦氏からいろいろとご教示を得ることができた。こうした成果をもとに県内での緑釉陶器の様相や緑釉陶器を出土する背景について検討を試みたのが本稿である。

群馬県内から出土した緑釉陶器は、1982年に刊行された檜崎彰一氏編「三彩 緑釉」中央公論社出版で全国の緑釉陶器が集成されている中では前橋市山王廃寺跡出土の手付瓶、椀、段皿と沼田市出土^{註1)}の緑釉陶器が上げられているだけであった。その後30年近くたった今日では発掘調査の増加とともに県内出土の緑釉陶器の量も増加している。そのなかには北群馬郡吉岡町の清里陣馬遺跡のように小片を含めると160点も出土している遺跡が見られるようになった。そして1998年に五島美術館・愛知県陶磁資料館で開催された「特別展 日本の三彩と緑釉」の図録のなかで井上喜久夫氏等による集成では70遺跡、175点以上を知ることができる。

こうした発掘調査の成果は全国規模で増加しており緑釉陶器の生産地での窯跡の発掘調査でも見られる。緑釉陶器の生産地での発掘調査の成果は、緑釉陶器についてのより詳細な検討が可能になり施釉陶器の編年等も詳細かつ正確なものになった。こうした発掘調査の成果をもとに緑釉陶器についての研究は1990年の三重県斎宮博物館で行われたシンポジウム「緑釉陶器の生産と消費」、1994年の古代の土器研究会のシンポジウム「律令的土器様式の西・東3施釉陶器」や1998年の愛知県陶磁資料館開館20周年記念特別企画展のシンポジウム「日本の三彩と緑釉—天平に咲いた華—」によって施釉陶器の編年及び窯式期の実年代が固まり施釉陶器の様相が明らかになった。シンポジウムの他には巽淳一郎氏による西日本での窯業生産についての論考(巽1983)、高橋照彦氏による緑釉陶器全般について産地・生産手法・分類・編年及び分布と流通についての論功(高橋1995)がある。そして群馬県内で出土する緑釉陶器の生産地である尾張・東濃、

京都、近江の各地域についての論考には、斉藤孝正氏による猿投窯黒笹地区の緑釉陶器についての論考(齋藤1998)、中国越州窯青磁と緑釉陶器・灰釉陶器の関係と猿投窯の様相についての論考(斉藤2000)、田辺昭一氏による東濃地区の様相についての論考(田辺1982)、京都産の緑釉陶器については寺島孝一氏(寺島1990)・水谷寿克氏(水谷1990)、上村和直(1994)の論考がある。近江産の緑釉陶器については日永伊久男氏(日永1990、1994)・高橋照彦氏(高橋1994)の論考がある。また、近年豊橋市二川窯の一支群である苗畑古窯・藤並大沢古窯の発掘調査の成果によると二川窯においても緑釉陶器生産が行われていたことが解っている。二川窯の緑釉陶器については賛元洋氏によってより明かにされており、その供給先も東海道を中心とする地域に行われていることが解っている(賛1996)。

こうした生産地での研究成果によって消費地での検討は飛躍的な成果を得ることが可能になっている。消費地での緑釉陶器についての分析・検討は1900年の三重県斎宮博物館で行われたシンポジウム「緑釉陶器の生産と消費」で斎宮、平安京と信濃についての発表が行われた。そして1994年の古代の土器研究会のシンポジウム「律令的土器様式の西・東3施釉陶器」で全国を網羅した形で各地の発表が行われ、関東地方を中心とした東国については高橋氏が網羅的にまとめている(高橋1994)。埼玉県、千葉県、茨城県と栃木県については灰釉陶器を含めて施釉陶器陶器全般について田中宏明氏によって分析・検討を行なわれている(田中1994)。神奈川県の様相については依田亮一氏によって集成・分類と検討がおこなわれている(依田1998)。そして1998年に五島美術館・愛知県陶磁資料館で開催された「特別展 天平に咲いた華 日本の三彩と緑釉」の解説図録で井上喜久夫氏によって全国を網羅して三彩陶器と緑釉陶器を集成した(井上1998)がある。

2 県内出土の緑釉陶器

(1) 周辺地域との比較

群馬県内から出土した緑釉陶器は、表2群馬県出土の緑釉陶器一覧のように98遺跡から800点ほどが報告されている。緑釉陶器の個体数自体は、発掘調査の増加とともに出土例も増えているが同様に搬入された灰釉陶器が小片では報告書に掲載されない状況と比較するとまだまだ多い量とは言えない。しかし、今日多少の格差はあるが全県的に発掘調査が進んでいる中で緑釉陶器の県内での傾向を把握することは可能な状況である。

群馬県内から出土した緑釉陶器の全体量を周辺地域の出土量を「特別展 天平に咲いた華 日本の三彩と緑釉」の解説図録で比較してみる。周辺地域では栃木県(下野国)が22遺跡50点以上と他の周辺地域の中での出土量が

少ない。そして出土している遺跡も国府や国分寺、男体山遺跡など官衙、寺院遺跡が主で集落遺跡からの出土量は少ない。西に隣接する長野県(信濃国)88遺跡310点以上と群馬県と比較すると同様の出土量に見えるが塩尻市吉田川西遺跡からは600点を超える出土量がみられこの他郡衙と推定される飯田市恒川遺跡や更埴市屋代遺跡、荘園と想定され松本市三間沢川左岸遺跡からは多量の出土例が知られており群馬県の出土量の倍近い数量である。これは長野県一信濃国が緑釉陶器を生産する東海地方に隣接しているという地理的条件が大きいと考えられる。関東地方の西側に位置する埼玉県、東京都、神奈川県では埼玉県31遺跡119点以上・東京都79遺跡222点以上(武蔵国)、神奈川県(相模国)43遺跡96点以上とある。ここでの数量の表記がドットによるものなので明確に比較することは出来ないがこの表での比較では県内からの出土量は周辺地域とそれほど大差はないようである。ここで依田氏によって集成(依田1998)が行われ出土量が数量的に明確である神奈川県と比較すると神奈川県では出土遺跡数99遺跡、出土点数1136点と群馬県より300点ほど多い。神奈川県の場合9世紀から10世紀にかけての国府が置かれた平塚市域での発掘調査が進んでおり国府域からの緑釉陶器の出土が62遺跡788点と出土量の69%を占めている。これに対して群馬県の場合、上野国府域で出土した緑釉陶器は4遺跡218点で神奈川県の約4分の1でしかない。こうした状態は国府域での発掘調査が限られていることによると考えられる。このような傾向は武蔵国との比較でも同様で武蔵国でも国府関連の遺跡が多い府中市でも遺跡数が45遺跡と多くみられる。こうした状況は緑釉陶器の出土傾向が一般的に言われている官衙・寺院遺跡から多く出土すると言うことを裏付けている。

(2) 種類・器種

緑釉陶器には奈良三彩陶が緑釉単彩化したものと平安時代の磁器模倣による緑釉陶器の2種類が存在する。県内から出土した緑釉陶器は前述のように800点ほどあるが、そのうち奈良三彩が緑釉単彩化したものは田端遺跡B区127号土坑出土の小壺がある。これ以外は平安時代の磁器模倣による緑釉陶器である。本稿でも対象とする緑釉陶器は平安時代のものである。県内から出土した緑釉陶器の器種は碗、稜碗、輪花碗、小碗、皿、小皿、段皿、輪花皿、輪花段皿、折縁皿、稜皿、耳皿、鉢、長頸壺、短頸壺、平瓶、小瓶、手付瓶、水注、四足壺、合子瓶、香炉、陶枕など多義にわたるものを見ることができる。なお、出土した緑釉陶器は、これらの器種の中でも圧倒的な割合を占めているのが碗・皿類である。碗48%、皿15%、碗・皿の区別が明確でないものが30%、碗・皿類で全出土量の93%と圧倒的な比率を占めている。碗・皿の内では、稜碗、輪花碗、小碗、段皿、輪花皿、輪花段皿、折縁皿、稜皿、耳皿がある。そして碗・皿類の中

には陰刻花文26点と緑彩4+ α (1~3点)点がある。出土緑釉陶器の残り僅か2.5%が瓶類である。瓶類のうち器種が明確なものは、長頸壺、水注瓶、手付瓶、小瓶、平瓶、唾壺、合子瓶、四足壺がある。このほかの器種として香炉、陶枕がある。これらの瓶類や香炉などの器種は出土量も少なく県内全体でも1~3個体しか確認されていない。陶枕は唐三彩によるものは数は少ないが全国で出土しており群馬県内でも新田町境ヶ谷戸遺跡や赤堀町今井三騎堂遺跡多田山12号墳で出土している。これに対して緑釉陶器の陶枕は全国的にも出土例がない希少な器種である。

こうした器種の傾向は武蔵国や相模国などの関東地方西側の周辺地域でも同様な様相を示している。

(3) 産地

県内出土の緑釉陶器の生産地としては、京都、近江、東海の3地域が見られる。そして産地が同定できる製品は全体の55%の440点である。それぞれの産地別では京都産76点17%、近江産25点6%、東海産342点77%と圧倒的に東海産の製品が占めている。東海産のうち尾北窯の製品と同定できるものが下東西・清水上遺跡より2点出土している。尾北産の製品は灰釉陶器でも出土量は少なく国分境遺跡などで僅かに出土例が見られる程度である。そのほか東海産の製品は9世紀代は尾張国猿投窯、10世紀代では美濃国東濃窯が主体であるが、東海産の中でも東濃産の製品の比率が高い。このほか東海産の中で近年確認された三河国二川窯の製品は現在東海地方で確認されているだけで東山道地域では確認されていないが高台端部の形態が近江産の製品と近似しており区分が難しい点がある。また、上野国と近接するような立地にある武蔵国の北部に所在する埼玉県大里町中堀遺跡では遠江や駿河産の灰釉陶器の出土が確認されている(田中1998)。こうした状況をふまえると今後二川窯の製品出土の可能性も否定できない。

(4) 年代

県内出土の緑釉陶器の生産年代については一応9世紀前半代から11世紀代にかけての出土例を見ることができる。出土緑釉陶器のうち生産年代の明らかにできたものは全体の半数強420点ほどある。その産地別の年代の数量と割合は畿内京都産が9世紀前半代の洛北窯の製品が20点5%弱、9世紀後半代の洛西窯の製品が13点4%弱、9世紀末から10世紀初頭の製品が10点2%、10世紀代の篠窯の製品が37点9%である。畿内産に対して猿投窯や東濃窯の東海産は9世紀前半代の黒笹14号窯式期の製品は僅かに1点0.2%しかないが続く9世紀後半代の黒笹90窯式期の製品が150点36%、東海産の10世紀前半代の折戸53号窯式期・大原2号窯式期の製品が98点23%、東海産の10世紀後半代の東山72号窯式期・虎溪山1号窯式期の製品が36点8%と10世紀代で前後半の判断に決めかね

る製品が58点14%、そして11世紀代の百代寺窯式期・丸石2号窯式期の製品が2点0.5%である。この他10世紀代の近江産の製品が25点6%である。こうして生産年代を概観すると9世紀後半代の東海産の製品が圧倒的に多く、ついで同じく東海産の10世紀代の製品が多い。この状態は灰釉陶器の出土傾向とは逆の現象である。また、東海産の初期の段階である黒笹14号窯式期の製品が僅かに国分境遺跡C11号住居から出土した合子瓶だけしか出土していない。これに対して同一の時期に生産されている京都産洛北窯の製品は国府域の元総社寺田遺跡をはじめとし古代群馬郡域の鳥羽遺跡、金古十三町遺跡、冷水村東、熊野堂遺跡、清水貝戸遺跡、半田中原遺跡、片岡郡域の豊岡後原遺跡、碓氷郡域の中里見原遺跡、多胡郡域の山名柳沢遺跡、緑野郡域の株木B遺跡、勢多郡域の芳賀北部団地遺跡、上西原遺跡、佐位郡域の上植木光仙房遺跡の14遺跡20点が出土している。こうした現象は次の京都産が洛西窯に生産の拠点が移動する段階では東海産の製品が主体になっている。また、9世紀前半代の黒笹14号窯式期の灰釉陶器についてその出土例見てみると数は少ないが出土例は確認されている。また、京都洛北窯産の緑釉陶器を出土している遺跡においても灰釉陶器は黒笹14号窯式期の製品を出土する例が見られる。こうした状況は高橋照彦氏が指摘しているように9世紀前半代に東海地方で生産された緑釉陶器は量的に限られておりの供給の主体は宮都や一部の官衙に限定されていたと推察される(高橋1995)。こうした限られた官衙・寺院を東国で見ると武蔵国分寺、陸奥国胆沢城²⁰⁾などがあげられる。東海地方の生産体制は半世紀の間に次第に拡充されその生産規模も大きくなり地方への供給も可能になり東日本では京都産を押さえて圧倒的な供給を行うようになることが群馬県でもみられる。

(5) 分 布

県内での分布は、おおむね推定が可能な律令制下での郡域毎²¹⁾にみていくことにする。古代上野国は、延喜式によれば碓氷、片岡、甘楽、多胡、緑野、那波、群馬、吾妻、利根、勢多、佐位、新田、山田、邑楽郡の14郡が置かれていた。これらの郡の中で現在緑釉陶器の出土が見られないのは甘楽郡と吾妻郡である。甘楽郡は多胡郡建郡により2郷が減少するが上野国内でも13郷と最も多い郷数有する郡でさらに郡内に貫前神社と宇芸神社の式内社2社が存在する郡でもある。これは、甘楽郡内の発掘調査は郷の中心地が存在すると想定される鐺川の下位河岸段丘より上位の台地上に大規模な開発が行われた²⁴⁾ためとも言えるのではないかと考えられる。吾妻郡は県内でも北西部の山間部に位置し郷の設置も4郷と下郡である。そして吾妻郡域は最近まで発掘調査も少なく古代の遺跡もあり調査が行われていないの現状であるが、最近の発掘調査では中之条町の伊勢町遺跡群の発掘

調査²⁵⁾で奈良三彩陶器小壺が出土していたり、六合村の熊倉遺跡²⁶⁾は律令制の枠外に位置づけられる集落であるが黒笹90号窯式期の灰釉陶器が出土しているなどから今後の発掘調査で緑釉陶器が出土する可能性は高い。しかし、出土量については同じ県北に位置する利根郡と同様であると考えられる。

では、残りの12郡での出土状況を見てみることにする。出土量は群馬郡44遺跡649点、片岡郡6遺跡18点、碓氷郡3遺跡10点+ α 、多胡郡6遺跡6点、甘楽郡、緑野郡4遺跡13点、那波郡2遺跡数十点、利根郡4遺跡4点、勢多郡13遺跡25点+ α 、佐位郡6遺跡13点、新田郡6遺跡18点、山田郡1遺跡1点、邑楽郡4遺跡11点、山田郡1遺跡1点である。この数字は発掘調査の件数や規模によっても左右されるがその中でも国府や国分寺、山王廃寺等の古代の中心地であった群馬郡から多量の出土が見られ上野国の中でも周辺部に当たる郡域では出土例が少ない傾向が見られる。

44遺跡649点と上野国の中の約8割を出土している群馬郡についてさらに郷域ごとに見てみることにする。古代群馬郡は「和名類聚抄」によれば長野、井出、小野、八木、上郊、畦切、群馬、島名、桃井、有馬、利刈、駅家、白衣郷の13郷が置かれていた。古代群馬郡の郷については複数の候補地が想定される郷も存在したり郷域の範囲であまり発掘調査が行われていない地域もあるため郷の比定地や範囲が不明確な部分もある。しかし、現在までの発掘調査や地名、終末期の古墳の分布などを考慮して想定される郷域で緑釉陶器の分布を見ることにする。群馬郡のうち緑釉陶器を出土した郷は群馬郷、畔切郷、八木郷、長野郷、島名郷、桃井郷、有馬郷の7郷からである。緑釉陶器の出土していない郷は6郷みられる。利刈郷については郷域が不明確な点が多い。駅家郷については上野国内での野後駅から新田駅までの東山道駅路が三遍しており駅家自体が移設したと考えられるが郷域自体は郡域の東南部に位置したと想定される。小野郷については片岡郡と多胡郡でも同名の郷が見られることから三郡が隣接した地域が想定される。井出郷²⁷⁾、上郊郷は現在の群馬町北部から箕郷町にかけて想定される。白衣郷は子持村南部域が想定される。利刈郷は白衣郷の西側の子持村西部と吾妻川を挟んだ対岸の渋川市西部が想定されている。こうした郷域では緑釉陶器を所有するような時期の遺跡の発掘調査が少ないことに起因する点が多きと考えられる。

群馬県内の緑釉陶器の出土量の80%を出土している古代群馬郷は、国府、国分寺、山王廃寺など古代上野国の中心的施設が存在する地域である。群馬郷は北を桃井郷、西を井出郷、八木郷、南を畔切郷、駅家郷、東を勢多郡に囲まれた範囲と考えられる。地理的には北が午王頭川、西が榛名山東南麓裾野から現在の前橋市と高崎市

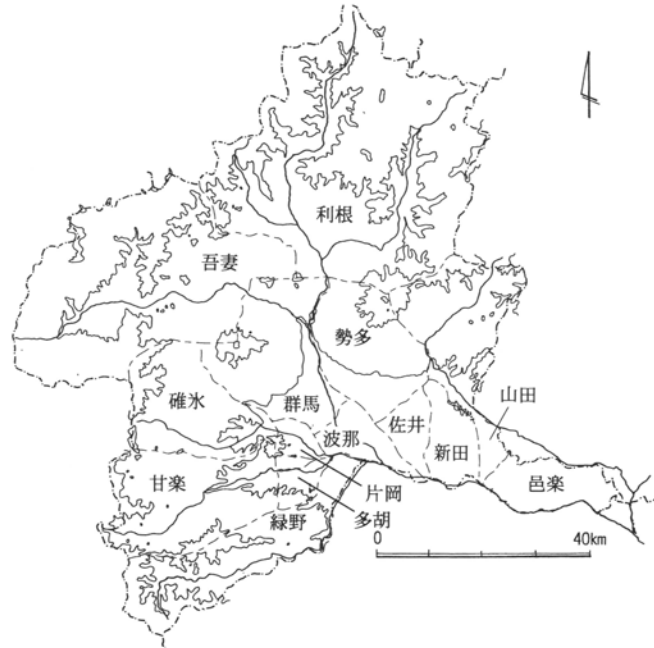
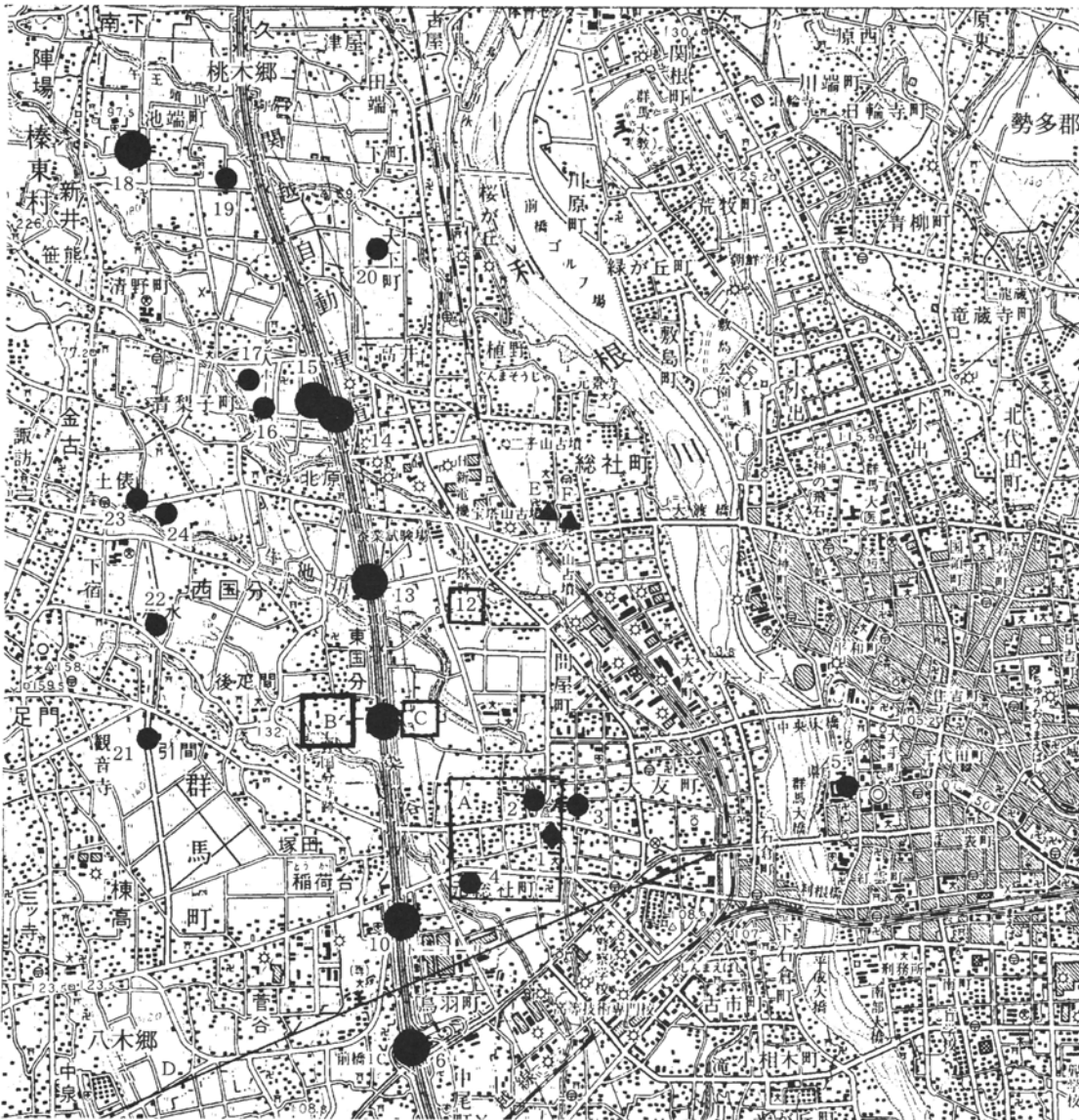


図1 古代上野国郡域図



- A 上野国府
 - B 上野国分僧寺
 - C 上野国分尼寺
 - D 東山道(平安期)
 - E 宝塔山古墳
 - F 蛇穴山古墳
- 遺跡のNoは出土遺跡の概要のNoと一致する

図2 群馬県内の緑釉陶器出土遺跡

の間に広がる低地、東が中世以前の旧利根川の流路である広瀬川低地帯、南は地形的に区分を明確にすることができないが国府域のやや南側の範囲であると考えられる。この群馬郷に属すると想定される遺跡には推定国府域に所在する遺跡として元総社寺田遺跡をはじめ元総社明神遺跡、堰越遺跡、天神遺跡がある。国府の北側では上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺、国分境遺跡、下東西遺跡、下東西清水上遺跡、清里南部遺跡群、中島遺跡がある。国府南西では鳥羽遺跡、中尾遺跡があり、鳥羽遺跡は神社跡や鍛冶などの工房跡が見つかっていることから国府関連の工房遺跡と考えられている。そして西側は小池遺跡、冷水村東遺跡、金古十三町遺跡付近までが想定される。国府の東側は現利根川や前橋市の市街地のため明確な遺跡、遺構は少ないが前橋城の発掘調査では平安時代の区画溝と考えられる遺構や灰釉陶器が出土している。群馬郷内での緑釉陶器出土状態は上野国や群馬郡の出土状態の縮小版的様相を示している。その様相は国府域を中心とし山王廃寺やその北側に位置する下東西清水上遺跡かけて多い傾向がみられる。そして郷域の周辺地域に当たる小池遺跡、冷水村東遺跡、青梨子金古境遺跡、金古十三町遺跡などでは出土しても1～2点でしかない。北辺に相当すると想定される地域には清里陣馬遺跡、清里長久保遺跡、長久保大畑遺跡・新田入口遺跡がある。清里陣馬遺跡からは160点と県内の1遺跡から出土した緑釉陶器では最も多い量を出土している。なお、清里陣馬遺跡については「4 遺跡」の項で検討を行う。

3 出土した遺構について

緑釉陶器を出土した遺構には竪穴住居、基壇建物、土坑、土坑墓、溝、道路、井戸、祭祀などがある。こうした緑釉陶器を出土して遺構について出土の傾向や出土遺構を基にして若干の検討を行うことにした。

(1) 竪穴住居

緑釉陶器を出土した遺構の中で最も多い遺構は竪穴住居である。緑釉陶器出土の竪穴住居は55遺跡193軒を数える。193軒の竪穴住居のうち1個体166軒、2個体15軒、3個体7軒、4個体5軒であるが大多数が1個体だけの出土である。こうした状況は同じ施釉陶器の灰釉陶器が1軒の竪穴住居から十数個体出土している例などからみても緑釉陶器がより一層非日常的な食膳具であったことが窺える。

竪穴住居の年代と緑釉陶器の年代の関係については表1のとおりである。表1では緑釉陶器が生産された年代を考慮して明らかに後の混入であると考えられる7世紀から8世紀に位置づけられる竪穴住居は除外してある。そしてその結果をみると畿内産9世紀前半代に位置づけられる洛北窯の製品は9世紀第一四半期から10世紀第3四半期に位置づけられる竪穴住居から出土している。洛北窯の製品のような生産年代とややかけ離れた年代の竪穴住居から出土する緑釉陶器の例も確かに認められる。しかし、多くの出土例は生産年代の緑釉陶器はその生産年代に比較的近い年代に位置づけられる竪穴住居から出土している傾向を読みとることができる。このことは緑釉陶器が次世代への継承される可能性が低いことを表していると考ええる。

こうした中で表1で()付きで表したのは上野国分僧寺・尼寺中間地域の緑釉陶器の年代と住居の時期である。上野国分僧寺・尼寺中間地域での住居の傾向は他の遺跡の住居の傾向を東海産9世紀後半代の緑釉陶器で比べると他の遺跡では生産年代と同じか四半世紀遅い時期の住居から出土が多い。これに対して上野国分僧寺・尼寺中間地域の住居は10世紀第2四半期から第3四半期に多い傾向がみられる。また、器種の中には全国的にみてごく僅かな出土例しかない陶枕や県内でも融通寺遺跡と二之

表1 緑釉陶器の年代と住居の時期

年代 時期	京 都 産					東 海 産					
	9 C. 前 半	9 C. 後 半	9 C. 末 ～10 C.	10 C.	10 C.	9 C. 前 半	9 C. 後 半	10 C. 前 半	10 C. 後 半	10 C.	11 C.
9 C. 1	1				(1)	2 (1)					
9 C. 2				1			(1)				
9 C. 3	5	1					5 (3)	1	1		
9 C. 4		1 (1)				1	12				
9 C. 前							4 (1)	2			
9 C. 後							17 (5)	6		4 (2)	
10 C. 1		1	3	3	1		6 (12)	11		1	
10 C. 2	2	1		1 (2)	1 (1)		2 (6)	7	3	1	
10 C. 3	1			4	1				3		
10 C. 4	1	1							3		
10 C. 前							1 (1)	1 (1)	1	3 (1)	1
10 C. 後							1	1			
10 C. 代								1	1		
11 C. 代			(1)				(2)				

* () 付きは上野国分僧寺・尼寺中間地域の住居

宮宮下東遺跡上野国分僧寺・尼寺中間地域しか出土していない唾壺が出土している。これは本来、上野国分僧寺なり尼寺が所蔵していた緑釉陶器が寺の衰退によって流出したと考えられる。こうしたことから上野国分寺や尼寺の衰退は10世紀代の早い時期には始まったと推察される。

(2) 土 坑 墓

土坑墓と考えられる遺構は清里長久保遺跡、高崎市舞台遺跡があげられる。この他有馬久宮戸遺跡があるが明確ではない。これらの遺構は楕円形、長方形の土坑から緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器の碗、皿、耳皿、長頸壺などが出土している。なお、清里長久保遺跡の土坑墓は墓坑の底面に副葬品を置いているのに対して舞台遺跡では副葬品の出土位置が墓坑の上位である。

こうした土坑墓での副葬品のあり方として最も顕著なのが長野県塩尻市吉田川西遺跡 SK128号土坑墓である。吉田川西遺跡 SK128号土坑墓は木棺に納められた被葬者の頭部に漆製品と八稜鏡が置かれ、棺の脇に緑釉陶器碗、皿、耳皿、灰釉陶器長頸壺、土師器碗などの多量の供膳具が置かれている。吉田川西遺跡の土坑墓は平安京三条三坊で検出された貴族墓の形態とよく似ており吉田川西遺跡での被葬者の地位の高さなり財力の大きさを知ることがある。こうした吉田川西遺跡の土坑墓の事例からして清里長久保遺跡や舞台遺跡の土坑墓の被葬者もこの地域の豪族層であると考えられる。

平安時代の土坑墓全体を概観すると副葬される土器は表2にみられるように碗、皿、耳皿と長頸壺などの瓶類がセットで埋葬される例が多い。これら供膳具は土坑墓に埋葬された被葬者が生前使用していたと考えられる銘名器の一部であると考えられる。そしてこれらの供膳具のなかで最も特徴的なものに耳皿がある。耳皿は桐原建氏によれば「貴族にとって箸代は晴れの儀式に限られてはいるものの供膳具の一つにすぎないのに対し、堅穴居住者にとって耳皿はそれが住居内に存したとはいえ、日常生活の供膳具を超えた用途を持つもの」と指摘している。さらにこれを受けて飯塚 誠氏は「祭祀権を持った家父長が耳皿を所持・管理しており、日常の祭祀に使用していた」と推察している(飯塚1988)。こうした耳皿についての考察や堅穴住居からの出土状況を加味しても耳皿が個人に属した銘名器であったことは明らかである。そして耳皿をはじめとする銘名器を所有していた個人が亡くなったときに碗、皿などの銘名器を副葬したと考えられる。これらの副葬品には土師器、須恵器、施釉陶器などがある。土坑墓に副葬される供膳具は日常的なものを副葬し高級食器である施釉陶器などは次世代に継承されたとの見方もできるが住居の項での住居年代と緑釉陶器の製作年代との間に差はそれほどないことから継承されたものは少ないと考えられる。副葬品の差は被葬

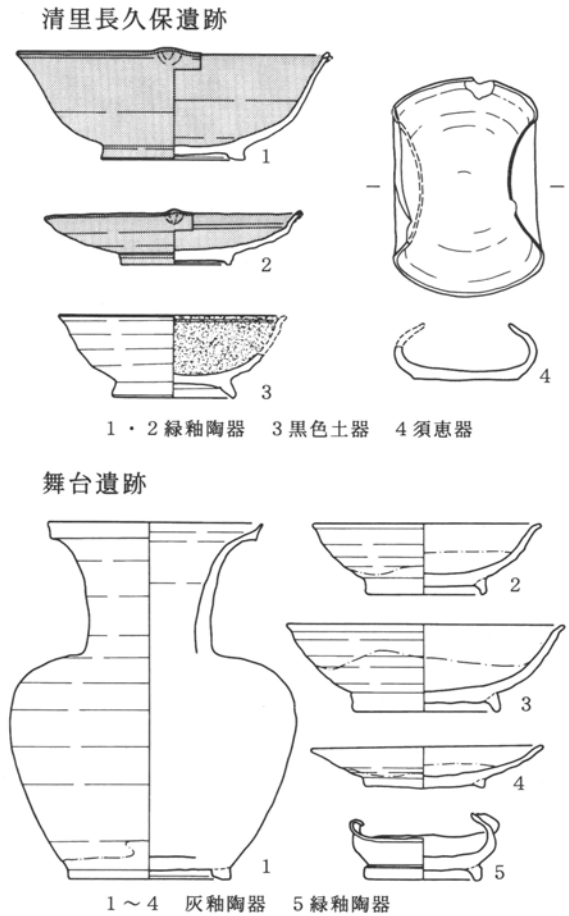


図3 土坑墓出土の緑釉陶器と共伴供膳具

者の生前での階層や富豪の度合いをそのまま反映していることは明らかである。緑釉陶器をはじめとする施釉陶器を副葬してある土坑墓は土坑墓全体の集成を見ても決して多い数量でないことから有力者であったことが解る。また、こうした副葬品の状況から施釉陶器が非日常的なハレの供膳具であったことが裏付けられる(綿貫・桜岡・神谷1992)。

(3) 祭 祀

祭祀と考えられる遺構には山王廃寺で見つかった水注、碗、段皿を出土した遺構がある。この遺構については釘の出土などから墓坑と考えられている説もある⁽⁸⁾。しかし、この遺構は一辺60cmの方形の形状をしており、遺物は遺構の中心部置かれた扁平な礫の上や周囲から出土していたとのことである(梅沢1964)。こうした状況から考えると土坑墓としてはあまりにも小規模である。そして出土して遺物は緑釉陶器の他に銅鏡、須恵器碗、皿、釘がある。出土した遺物の個体数は緑釉陶器水注1点、小碗3点、皿2点、段皿2点、須恵器碗2点、皿2点、銅鏡1点、鉄釘3点と緑釉陶器と須恵器の小破片である。こうした遺物の出土状況からしてこれらの遺物が密教でいわれる六器に近い様相を呈しており梅沢氏

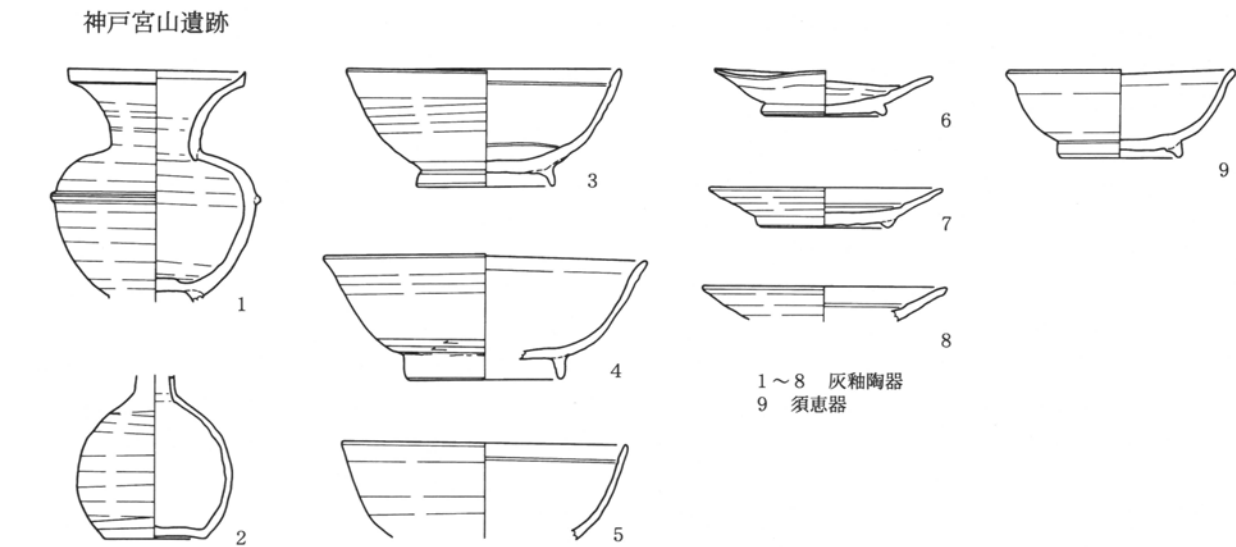
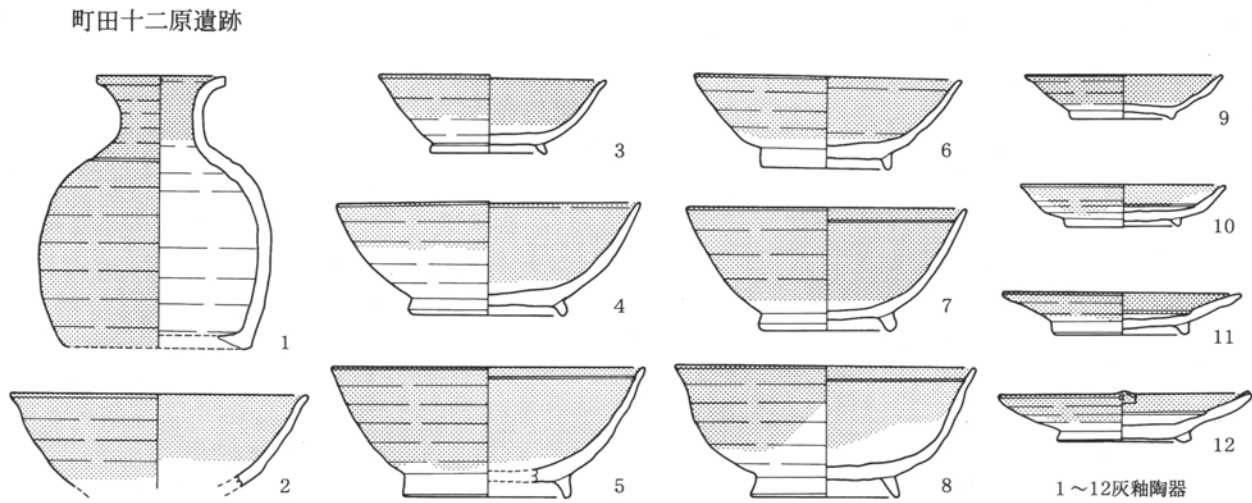
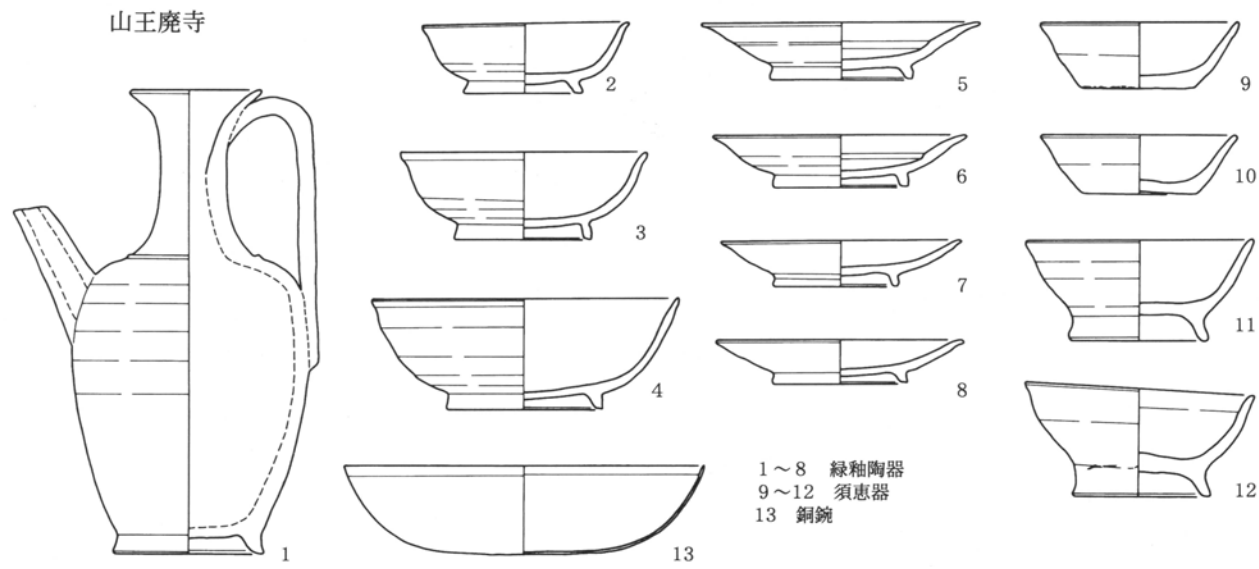


図4 祭祀に使用された施釉陶器

が想定された鎮壇具埋納などの祭祀遺構と考えるのが妥当である。密教法具では金銅製容器の金剛杵、金剛鈴、金剛盤、輪宝、羯磨、金鉢、四槨、火舎、花瓶、六器、飲食器など多くの法具で構成されている。これらの密教法具は本来金銅製品で揃えられている⁴⁹⁾が、金銅製品での取り揃えが不可能な場合六器や飲食器などの器に関しては代用品でまかなったことが知られている。このような密教法具として緑釉陶器が使用されていたことは前川要氏(前川1987)や高橋照彦氏(1994)によって指摘されている)。その代表的な例として静岡県修善寺裏山で発見された一括遺物には金銅製独鈷杵、香炉、花瓶と伴に緑釉陶器輪花碗と段皿が含まれていることでも解る。そして緑釉陶器は生産当初は唐の青磁を模倣して生産されたことは知られているが生産された器種の中には稜碗など金属容器をも模倣した器種も生産されている。山王廃寺出土の水注は青磁の水注が胴部に膨らみを持つものに対して胴部が細く金属製の水注を模倣したことを考えられている(斉藤2000)。こうした状況などからして山王廃寺の水注、碗、皿などをはじめとする遺物は仏教法具の一部であったと考えられる。

こうした仏教法具での金銅製品の代用品は緑釉陶器だけでなく灰釉陶器の使用も考えられる。真言宗の請雨祈雨の修法に緑釉陶器を使用することが知られている。桐原健氏はこの請雨祈雨の際に灰釉陶器を代用として使用されていることを指摘されている(桐原1986)。今まで灰釉陶器の供膳具を多く所有する住居などは下佐野遺跡や太田市賀茂遺跡などの例が知られているが、碗、皿などの供膳具だけでなく碗と段皿の二器をセットとしさらに小瓶、花瓶などを一括して出土している遺構が近年沼田市町田十二原遺跡や榛名町神戸宮山遺跡で検出されている。町田十二原遺跡と神戸宮山遺跡の遺構はともに竪穴住居でここから4図のような灰釉陶器の瓶、碗、皿の一括資料が出土している。町田十二原遺跡は後述の緑釉陶器出土遺跡の概要にあるように隣接する戸神諏訪遺跡では「宮田寺」と呼称されていた村落内寺院が存在しており町田十二原遺跡16号住居の居住者はこの寺院で祭祀を司っていた者であると推定される。神戸宮山遺跡は榛名山西南麓の烏川左岸の河岸段丘上に位置した平安時代10世紀代の竪穴住居を中心とする小規模な集落である。そして遺跡地は水田耕作などに適した地域ではないことなどから榛名山での修験道に関する集落の可能性も考えられる。

4 出土遺跡について

緑釉陶器を出土した遺跡は98遺跡を確認しているがこれらの遺跡を性格ごとに分類すると官衙、寺院、集落と遺跡の種類では生産遺跡を除く遺跡種である。すなわち緑釉陶器を出土する可能性のある遺跡種類から出土して

いることになる。

(1) 官衙遺跡

群馬県内では官衙と明確に断定できる遺跡は検出されていないが元総社寺田遺跡は推定国府域の中に存在し出土遺物の中に「国厨」、「曹司」などの墨書土器が出土しており国庁で管理されていた土器が廃棄されて流されたものと考えられる。こうした一群の遺物に伴って出土した緑釉陶器も墨書土器と同様に国庁で使用されたものと考えられる。この他では大八木屋敷遺跡は区画溝や柵、八脚門、掘立柱建物の存在から古代群馬郡の別院である「八木院」の可能性が指摘されている(高島1995)。県内の官衙遺跡についてはまだまだ明確でない点が多いため緑釉陶器についての出土傾向も明確にすることができないのが現状である。

(2) 寺院遺跡

寺院遺跡は山王廃寺、上西原遺跡、十三宝塚遺跡、宇通遺跡、黒熊中西遺跡、戸神諏訪遺跡がある。遺跡概要については後述の緑釉陶器出土遺跡の概要を参考にしていただきたい。寺院遺跡からの出土は山王廃寺から13点ある他は上西原遺跡と黒熊中西遺跡から2点、十三宝塚遺跡、戸神諏訪遺跡1点と僅かな出土量でしかない。なお、宇通遺跡については報告が「群馬県史」などで断片的に行われているだけで詳細は不明であるが秀品が出土しているとのことである。また、十三宝塚遺跡の存続は奈良三彩などの出土から奈良時代8世紀代が中心であったと考えられる。この他の古代寺院では瓦や瓦塔などが出土しているが仏事の法要などで使用された仏具の出土例は僅かしかみられない。こうした要因の一つとして小規模な寺院の戸神諏訪遺跡「宮田寺」では隣接する町田十二遺跡16号住居の関係から考えることができる。戸神諏訪遺跡の寺院は区画された内部に堂宇が単独で存在する小規模な寺院であるがその存続時期は9世紀から10世紀にかけてである。町田十二遺跡16号住居は10世紀第4四半期かそれよりやや遅れる時期と考えられ戸神諏訪遺跡の寺院が存続する期間である。こうしたことから町田十二遺跡16号住居出土の仏具と想定される灰釉陶器の一群は寺院から流出したものではなく仏事の法要を司る個人に属していたと考えられる。

こうした想定は小規模な寺院では可能であると考えられるが国分寺や定額寺などの大規模寺院では資財帳などからして仏具も寺院に帰属するものであるから寺院の衰退とともに外部に流出したと考えられる。こうした例として「3. 出土遺構について(1)竪穴住居」で記したように上野国分寺からは緑釉陶器が出土していないの対して隣接する上野国分僧寺・尼寺中間地域では多量の出土例があることから推察される。また、上野国分僧寺・尼寺中間地域からは78点と清里陣馬遺跡に次ぐ量の緑釉陶器が出土しているがそのうちの60点は9世紀後半代の製品であ

る。こうした点から上野国分寺は9世紀後半代にはいろいろなものが運び込まれ繁栄をしていたとが推察される。

(3) 集 落

古代集落からの緑釉陶器の出土はいくつかの遺跡を除くと一桁代の出土量である。こうした中で国府域の遺跡や国府関連の遺跡と考えられる鳥羽遺跡と上野国分寺関連の遺跡と考えられる上野国分僧寺・尼寺中間地域以外の集落遺跡である程度緑釉陶器がまとまって出土した遺跡は下東西清水上遺跡(隣接する下東西遺跡も含める)、清里陣馬遺跡、熊野堂遺跡、下芝五反田遺跡、豊岡後原遺跡などがある。集落遺跡は律令制が制定され地方に評里制が制定された当初に編成された律令的集落と律令制が崩壊しはじめる8世紀中頃から発生する開発集落とに区分できる¹¹⁰⁾。前者の集落遺跡には下東西清水上遺跡、熊野堂遺跡、豊岡後原遺跡があげられる。下東西清水上遺跡は山王廃寺と総社古墳群の間に位置し、下東西遺跡では律令制成立期の7世紀末から8世紀初頭にかけての区画溝や柵で囲まれた内部に大型の掘立柱建物や掘立柱建物群や2棟が廊下で結ばれた特殊な竪穴住居が存在しており豪族居宅と想定される。こうした様相から下東西清水上遺跡は律令成立期から没落することなく平安時代まで勢力を保つことができた中心的集落であったと考えられる。豊岡後原遺跡は下東西遺跡のような居宅遺構は検出されていないが周囲には八幡観音塚古墳をはじめとする多くの古墳が存在しており古墳時代からこの地域の首長層が居住していた地域であったと考えられる。その勢力が下東西清水上遺跡と同様に平安時代まで継続された遺跡と考えられる。熊野堂遺跡は下東西遺跡のような遺構や豊岡後原遺跡のような背景を見出すことはできないが出土遺物のなかには奈良三彩小壺などが出土している。熊野堂遺跡は古代では八木郷に比定されるがこの八木郷内では近年高崎市小八木町の小八木志志貝戸遺跡の調査で8世紀中葉に豪族居宅¹¹¹⁾が見つかった。また、八木郷では9世紀代に井野川を挟んだ熊野堂遺跡の対岸で古代寺院の存在を想定させるような瓦塔や緑釉陶器唾壺を出土している融通寺遺跡、古代群馬郡の別院の「八木院」と想定される大八木屋敷遺跡が存在しており郷の中心地が小八木地域から熊野堂遺跡や融通寺遺跡、大八木屋敷遺跡の存在する地域へ変化した結果と考えられ律令成立期の勢力が継承されるか移譲されたかして継続していたと考えられる。

こうした律令成立期の集落に対して清里陣馬遺跡や下芝五反田遺跡は住居の形成時期から律令制が崩壊した後形成された集落である。陣馬清里遺跡は古墳時代の首長の勢力範囲の狭間的地域¹¹²⁾で開発が遅れていた、下芝五反田遺跡は火山災害により耕作に適していない地域で古墳時代には墓域などの非生産地と利用される程度し

かなかった。しかし、律令制の崩壊とともに私的権力による大規模な開発が行われるようになったのは周知の事実である。こうした開発遺跡の研究では信濃国筑摩郡で調査成果によって古代の様相が明らかにされている。その中で松本市三間沢川左岸遺跡は中央の貴族が関係した荘園と考えられている。三間沢川左岸遺跡では掘立柱建物群と竪穴住居群が検出され、出土遺物には多量の灰釉陶器、緑釉陶器や青磁、銅鏡、八稜鏡などと「長良私印」出土が出土している。出土した私印はその名から平安時代初期の貴族「権中納言藤原長良」が想定される。私印をはじめとする青磁、多量の緑釉陶器・灰釉陶器や掘立柱建物群の存在などからして三間沢川左岸遺跡は藤原長良に關係する荘園と考えられている。

清里陣馬遺跡や下芝五反田遺跡でも三間沢川左岸遺跡のように中央貴族なり平安時代になると出現する富豪の輩により新たに開発された集落と考えられる。特に緑釉陶器の出土量の多さから考えると中央貴族が背景に存在する勢力によって開発されたと考えるのが妥当であろう。特に清里陣馬遺跡は集落自体は8世紀後半代から存在し9世紀後半代以降から増加しているが出土した緑釉陶器の年代は9世紀代のものはわずか3点しかなく残りの157点は10世紀～11世紀代の製品である。清里陣馬遺跡での開発は当初在地の豪族によって行われたがその後皇族や貴族、寺院などの中央の権門に寄進されその勢力を背景に開発がより進んだと推察される。

これに対して同じ開発集落と考えられる沼南遺跡や戸神諏訪遺跡は緑釉陶器の出土量は僅かである。沼南遺跡は清里陣馬遺跡の西に位置しており遺跡の環境は同様であるが集落は10世紀代になって構築されていることから開発も同じ時期に始まったと考えられる。戸神諏訪遺跡は弥生時代後期から古墳時代初期にかけて比較的大規模な集落が営まれているがその後古墳時代から奈良時代前期にかけてはほとんど住居も検出されておらず無住の地域であった。それが奈良時代後期から小規模な集落が営まれ9世紀から10世紀には村落内寺院を有する規模の大きい集落へ発展している。沼南遺跡や戸神諏訪遺跡は規模的には清里陣馬遺跡や下芝五反田遺跡と同様かそれ以上であったと考えられるが緑釉陶器の出土量がわずかでしかないことはその開発の主導を行った背景に違いがあったと考えられる。

こうして緑釉陶器を出土する集落を概観すると緑釉陶器が搬入されるにはそれなりの背景が存在していたことが窺える。

5 おわりに

以上のように上野国での緑釉陶器を概観すると緑釉陶器は時代とともに搬入された量は増加するものの日常の供膳具で占める割合は平安京¹¹³⁾などと比較すると非常

に少なく非日常的な供膳具であったことがより鮮明になった。そして周辺地域との比較では下野や陸奥など都城や生産地から遠隔地になればなるほど緑釉陶器の出土遺跡が官衙、寺院などが主体になり集落遺跡からの出土が少なくなる。こうした官衙、寺院からの出土については言われてきたことであるが信濃や上野などでは官衙、寺院遺跡だけでなく集落遺跡においても多量の緑釉陶器を出土する遺跡が存在する。こうした緑釉陶器が搬入される背景には律令制が崩壊していく中で行われていく中央の権門による荘園開発的な様相がみられる。また、中央の権門による開発は在地の開発者に大きな後盾になったことは明らかでこうした勢力は次第に財力を蓄え「富豪の輩」へ発展し、さらに「僞馬の党」として流通に大いにかかわったと考えられる。また、僞馬の党の拠点的集落は緑釉陶器の出土量からみると国府から離れた地域

緑釉陶器出土遺跡の概要

遺跡の概要については緑釉陶器に関係する平安時代を中心に記載したが、遺跡が成立した背景を把握するために古墳時代からの内容にも触れてある。郷の比定については尾崎喜佐雄「群馬の地名上・下」、各市町村史などを参考にして検討した。なお、郷の比定についてはまだ不明な点が多いのが現状である。

(文献は緑釉陶器出土遺跡文献のNaである。)

1. 元総社寺田遺跡(前橋市元総社町閑泉明神北、屋敷、寺田)文献1、2
牛池川の河川改修に伴う発掘調査、遺跡は推定国府域に位置し、古代から河道であった。主な遺構・遺物には水田、土師器、須恵器、木製品、施釉陶器、八稜鏡などがある。国府に関連する遺構は検出されていないが遺物のなかには「国厨」・「曹司」など国府に関連する墨書土器が出土している。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定される。
2. 元総社明神遺跡(前橋市元総社町屋敷、総社町総社他)文献3～8
区画整理事業に伴う発掘調査で13年間にわたって行われている。遺跡は国府域の東端から東側にかけてに位置する。主な遺構・遺物は水田、堅穴住居、掘立柱建物、区画溝、土師器、須恵器、施釉陶器、木製品などがある。国府に関連する遺構は400メートル以上に及ぶ南北方向の溝が検出されておりこの溝は国府域の東辺を区画するものと推定されている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定される。
3. 堰越遺跡(前橋市大友町3丁目)文献9
遺跡は推定国府域の東端、東側に位置する。主な遺構・遺物に堅穴住居、井戸、土坑、溝がある。住居の主体は9世紀代である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定される。
4. 天神遺跡(前橋市元総社町早道、天神)文献10、11
2次にわたって調査が行われている。遺跡は推定国府域の南西部に位置する。主な遺構・遺物には堅穴住居、土坑、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、輸入陶磁器、銅鏡、瓦などがある。住居は9～11世紀代のもので国府成立期の8世紀代のものは確認されていない。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され推定国府域内に想定されるが周辺には国府成立前後の住居は確認されていない。
5. 前橋城遺跡(前橋市大手町1丁目)文献12
現利根川の左岸、旧利根川の流路である広瀬川低地帯右岸の前橋台地上に位置する。遺跡は旧前橋城跡が主体であるが平安時代の堅穴住居、井戸、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器なども出土している。住居は奈良時代後半から平安時代初期にかけてのものである。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落は律令制成立後に先制されたものが拡大したと考えられる。
6. 中尾遺跡(高崎市巾尾町)文献13
推定国府の南側、榛名山東山麓相馬ヶ原扇状地の末端に位置する。主な遺構・遺物には古墳時代から平安時代の堅穴住居、土師器、須恵器、

に存在していたのではなく国府から比較的近接した地域に存在したとみられる。このことは平安時代10世紀代には国府機能は衰退してただけでなく官人層の腐敗ぶりが窺える。こうした結果、10世紀前半の935年に「平将門の乱」が起きるわけであるが緑釉陶器をとおしても古代東国の情勢をみることができたと思われる。

今回不十分な分析ではあるが緑釉陶器をとおして古代から中世への変革の始動の一端をかいま見ることができたのではないと思われる。

本稿をまとめるにあたり多くのご助言、ご援助をいただいた高橋照彦、志村 哲、小山友孝、綿貫邦男、桜岡正信、須田正久の各氏に末筆ながら謝意を表したい。

なお、本稿は平成11年度(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団研究助成金の成果の一部である。

施釉陶器がある。住居は7世紀後半から11世紀にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

7. 吹屋遺跡(高崎市巾尾町吹屋、村東)文献14
榛名山南東麓の末端に位置する。遺構・遺物は中世が主体であるが、古代の遺構は僅かに堅穴住居、井戸などが存在する。遺跡地は古代群馬郡群馬郷か群切郷に比定される。
8. 新保田中村前遺跡(高崎市新保田中町)文献15
染谷川左岸の自然堤防上微高地に位置する。主な遺構・遺物には堅穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、土師器須恵器、黒色土器、施釉陶器、鉄器などがある。住居は奈良時代から平安時代にかけてであるが検出された軒数が8軒と少なく継続的に存続したか否かは不明である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷か群切郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
9. 箱田古市前遺跡(前橋市箱田町古市前)文献16
前橋台地と相馬ヶ原扇状地の接点に立地し、牛池川流域に位置する。主な遺構・遺物には堅穴住居、水田、畠、土師器、須恵器、施釉陶器などがある。水田は浅間山 As-B、榛名山 Hr-FA の2層のテフラ下から検出されており古墳時代中期から水田耕作が行われていた地域である。住居は奈良・平安時代のものが主体である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷か群切郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
10. 鳥羽遺跡(前橋市鳥羽町、元総社町、群馬郡群馬町稲荷台)文献18～20
推定国府の西側を流れる染谷川の右岸に位置する。主な遺構・遺物は堅穴住居、掘立柱建物、神社跡、鍛冶工房、柵、溝など多種におよんでいる。住居は800軒が検出されその存続期間も古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。なお、遺跡は古代群馬郡群馬郷に比定され、推定国府との位置関係や工房群の検出などから官営の工房と想定され、大規模な集落の存在から上野国府の外郭的な施設が存在していた地域と考えられる。
11. 上野国分僧寺・尼寺中間地域(群馬郡群馬町東国府～前橋市元総社町)文献21～27
榛名山東麓の相馬ヶ原扇状地の末端、牛池川と染谷川の間に位置する。遺跡は上野国分僧寺と尼寺の間の地域に位置する。主な遺構・遺物は堅穴住居、掘立柱建物、土坑墓、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、神功開宝、富寿神宝、長年大宝、饒益神宝などの皇朝十二銭、「法花寺」などの墨書土器などおびただしい数が出土している。奈良・平安時代の住居は1200軒におよび継続的に営まれている。この他掘立柱建物群のなかには規則的に配置された建物群が存在しており国分寺に関連する施設と考えられるものがある。
12. 山王廃寺(前橋市総社町)文献28～31
榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。牛池川の左岸に位置

- る。7世紀後半に建立された寺院、出土文字瓦から「放光寺」と想定されている。主な遺物には仏具や塑像など仏教関連のものが多く出土している。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、寺院は11世紀代まで存続したと考えられている。
13. 国分境遺跡(群馬郡群馬町北原字国分境)文献32
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。牛池川の左岸に位置し、牛池川を挟んだ対岸には国分僧寺・尼寺が存在する。主な遺構・遺物は竪穴住居、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、墨書土器、木簡を転用した定木などが多数出土している。住居は飛鳥時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落の形成は存続年代から見ると律令制成立期に編成されたと想定されるが東に山王庵寺が存在していることから寺院に付随する集落と考えられる。
14. 下東西遺跡(前橋市青梨子町字下東西他)文献33
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。八幡川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、区画溝、土坑、土坑墓、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。掘立柱建物群と区画溝は7世紀末から8世紀初頭にかけて存続しており官衙の様相を呈している。住居は飛鳥時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
15. 下東西・清水上遺跡(前橋市青梨子町清水上他)文献34
 下東西遺跡の西側に隣接する地点の調査。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、銅製容器(花瓶か)、鉄器などが出土している。住居は下東西遺跡の官衙的遺構が廃絶した後の奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落の形成は律令制成立後の早い段階に新たに下東西遺跡の集落が拡大して編成されたと考えられる。
16. 清里南部遺跡群(前橋市青梨子町)文献35
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。八幡川と午王頭川に挟まれた台地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、硯、墨書土器、巡方などが出土している。住居は平安時代のものが主である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落の形成は律令制成立期後東に位置する下東西遺跡や下東西・清水上字遺跡、中島遺跡の集落が拡大して編成されたと考えられる。
17. 中島遺跡(前橋市青梨子町字中島・中原)文献36
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。南を八幡川、北を谷に挟まれた台地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、硯、墨書土器、瓦、巡方などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれているが7割は10世紀代のものである。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
18. 清里陣馬遺跡(北群馬郡吉岡町陣馬、前橋市池端町)文献37
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地上に立地する。八幡川と午王頭川に挟まれた台地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は9世紀から11世紀初頭にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷か桃井郷に比定され、集落の形成は律令制崩壊後の開発によると考えられる。
19. 清里長久保遺跡(北群馬郡吉岡町長久保、前橋市池端町)文献38
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地上に立地する。八幡川と午王頭川に挟まれた台地に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、古墳、土坑墓、土師器、須恵器、施釉陶器などがある。住居は平安時代(10世紀代)のものが1軒検出されただけで古墳時代以降は墓域としての地域であったようである。遺跡地は古代群馬郡群馬郷か桃井郷に比定される。
20. 長久保大畑遺跡 新田入口遺跡(北群馬郡吉岡町大久保)文献39
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地上に立地する。午王頭川左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、柵列、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、紡錘車、鉄製品などがある。住居は平安時代9世紀代が主体である。遺跡智は古代群馬郡群馬郷か桃井郷に比定され、

集落は律令制崩壊後の開発によると考えられる。

21. 小池遺跡(群馬郡群馬町引間)文献40
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。染谷川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて確認されておりこの地域では継続的に営まれていたようである。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
22. 冷水村東遺跡(群馬郡群馬町冷水字村東)文献41
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。染谷川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、水田、畠、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器(鋸 etc)などが出土している。住居は古墳時代中期から平安時代にかけて存在する。古墳時代中期には遺跡南端東とりに三ツ寺I遺跡の居館跡と同様な施設(北谷遺跡)が存在し畠地と谷地を利用した小規模な水田が検出されている。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定されるが律令期には郷域の縁辺に当たるためか閑村的な様相が見られる。
23. 金古十三町遺跡(群馬郡群馬町金古十三町)文献41
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。牛池川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、水田、畠、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて存在するが調査区内では継続的な営みは確認されない。青梨子金古境遺跡とは近接した位置関係である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定されるが律令期には郷域の縁辺に当たるためか閑村的な様相が見られる。
24. 青梨子金古境(前橋市青梨子町金古境)文献42
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端に立地する。牛池川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、溝、土坑、畠、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて存在するが調査区内では継続的な営みは確認されない。金古十三町遺跡とは近接した位置関係である。遺跡地は古代群馬郡群馬郷に比定されるが律令期には郷域の縁辺に当たるためか閑村的な様相が見られる。
25. 菅谷石塚遺跡(群馬郡群馬町菅谷字石塚)文献44
 榛名山東南麓相馬ヶ原扇状地の末端、井野川の左岸に位置する。主な遺構・遺物には水田、道路、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。遺跡地は水田を中心として生産域で緑釉陶器が出土した遺構は9世紀代後半以降の東山道(国府ルート)と推定される道路遺構の側溝からである。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、この地域は律令制成立期には水田地帯として編成されていたと考えられる。
26. 雨壺遺跡(高崎市)文献44
 榛名山南麓、井野川の左岸、唐沢川が合流する地点の北側に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、硯、鉄器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
27. 熊野堂遺跡(高崎市大八木町熊野堂・群馬郡群馬町井出)文献45
 榛名山南山麓、井野川の左岸、唐沢川が合流する地点の北側に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、水田、9世紀後半以降の推定東山道(国府ルート)、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、瓦、鉄器など多種におよんでいる。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
28. 融通寺遺跡(高崎市大八木町融通寺)文献46
 井野川の右岸の自然堤防上に位置する。大八木屋敷遺跡とは隣接している。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、白磁唾壺、瓦塔、羽口、石帯など多種におよんでいる。住居は8世紀から10世紀にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
29. 大八木屋敷遺跡(高崎市大八木町融通寺)文献47

- 井野川の右岸、井野川支流の小河川早川と合流する地点に位置する。融通寺遺跡とは隣する位置関係である。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、門、柵、溝、水田、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、鉄器など多種におよんでいる。住居は8世紀から10世紀にかけて継続的に営まれている。掘立柱建物、門は柵、溝で区画されており「上野国交代実録帳」の諸郡官舎条群馬郡にみえる「八木院」に相当する官衙遺構と推定されている。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、集落の形成は律令制成立期に編成されたと考えられる。
30. 芦田貝戸Ⅱ遺跡(高崎市浜川町字芦田貝戸)文献48
 榛名山南麓の末端、古墳時代中頃に起きた榛名二ツ岳の火山性洪水堆積物に覆われている。井野川右岸の段丘上に位置する。主な遺構・遺物には主な遺構・遺物には竪穴住居、溝、水田、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器などがある。住居は平安時代のものである。遺跡地は古代群馬郡八木郷に比定され、集落の形成は律令制崩壊後の開発よると考えられる。
31. 石神五反田遺跡(高崎市楽間町)文献49
 榛名山南麓白川扇状地の末端に位置する。周辺地域は6世紀に起きた榛名山二ツ岳噴火の際の火山性洪水堆積層に厚く覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、水田、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、瓦、羽口などがある。住居は平安時代のものである。遺跡地は古代群馬郡長野郷に比定され、集落の形成は律令制崩壊後の開発よると考えられる。
32. 舞台遺跡(高崎市楽間町)文献50
 榛名山南麓白川扇状地の末端に位置する。周辺地域は6世紀に起きた榛名山二ツ岳噴火の際の火山性洪水堆積層に厚く覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、水田、土師器、須恵器、施釉陶器などがある。緑釉陶器は礫を巡らした土坑墓と考えられる遺構から灰釉陶器長頸壺、碗、皿とともに耳皿が出土している。住居は平安時代のものである。遺跡地は古代群馬郡長野郷に比定され、集落の形成は律令制崩壊後の開発よると考えられる。
33. 清水遺跡(高崎市楽間町)文献50
 榛名山南麓白川扇状地の末端に位置する。周辺地域は6世紀に起きた榛名山二ツ岳噴火の際の火山性洪水堆積層に厚く覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、水田、土師器、須恵器、施釉陶器などがある。住居は平安時代のものである。遺跡地は古代群馬郡長野郷に比定され、集落の形成は律令制崩壊後の開発よると考えられる。
34. 下芝五反田遺跡(群馬郡箕郷町下芝)文献51
 榛名山南麓の白川扇状地上に位置する。古墳時代中期には居館遺跡三ツ寺Ⅰ遺跡の豪族土の配下に属していた谷ツ古墳の被葬者が勢力下であるが6世紀前半に起きた榛名榛名二ツ岳の噴火により4メートル近い火山灰や土石流で埋没し8世紀前半まで荒廃とした地域であったが9世紀代に開発が行われ、集落は8世紀後半から11世紀前半にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡長野郷に比定され、集落の形成は律令崩壊後の開発よると考えられる。遺跡地は古代群馬郡桃井郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
35. 清水貝戸遺跡(北群馬郡榛東村新井)文献52
 榛名山東麓に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてのものである。遺跡地は古代群馬郡桃井郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
- 御堀遺跡(北群馬郡榛東村山子田)文献53
36. 榛名山東麓、午王頭川と南城寺川に挟まれた台地に位置し、標高は260メートルほどである。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は奈良時代後期から平安時代にかけてであるが9世紀前半代までは希薄で後半以降に継続的に営まれるようである。遺跡地は古代群馬郡桃井郷に比定され、集落は律令制崩壊後の開発よると考えられる。
37. 沼南遺跡(北群馬郡吉岡町字大久保)文献54
 榛名山東麓、午王頭川の左岸に位置する。おもな遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は平安時代10世紀以降に形成され11世紀代まで営まれている。遺跡地は古代群馬郡桃井郷か群馬郷に比定され、集落は律令制崩壊後に開発よると考えられる。

38. 大久保A遺跡(北群馬郡吉岡町大久保字宮)文献55
 榛名山東麓、旧駒寄川左岸の自然堤防上及び陣馬岩屑流丘縁辺に位置する。遺跡の西に隣接して上野三之宮が鎮座している。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、小鍛冶、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦塔、巡方、鉄器、富寿神宝などが出土している。住居は古墳時代後半から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡桃井郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
39. 畑中遺跡(北群馬郡吉岡町下北)文献56
 榛名山東麓、午王頭川と堂入沢に挟まれた台地に位置し、標高は220～230メートルである。おもな遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は平安時代10世紀以降に形成され11世紀代まで営まれている。遺跡地は古代群馬郡桃井郷に比定され、集落は律令制崩壊後に開発よると考えられる。
40. 有馬宮間戸遺跡(渋川市有馬字久宮間戸)文献57
 榛名山東麓、午王川右岸の微高地、主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦などが出土している。住居は古墳時代後期と平安時代のものである。隣接地は有馬庵寺の存在が推定されている地域である。遺跡地は古代群馬郡有馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
41. 有馬遺跡(渋川市八木原)文献58
 榛名山東麓、午王川右岸の微高地、遺跡地は古墳時代6世紀代の榛名二ツ岳噴火のさいに起きた土石流災害で厚い泥流堆積物で覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、仏像(天部形立像)などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡有馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
42. 有馬条里遺跡(渋川市八木原)文献59
 榛名山東麓で利根川の間に開けた扇状地に位置する。有馬遺跡とは午王川を挟んで隣接する。遺跡地は古墳時代6世紀代の榛名二ツ岳噴火のさいに起きた土石流災害で厚い泥流堆積物で覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、紡錘車などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代群馬郡有馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
43. 半田中原南原遺跡(渋川市半田字中原・南原)文献60
 榛名山東麓の扇状地と吉岡川の自然堤防上に位置する。遺跡地は古墳時代6世紀代の榛名二ツ岳噴火のさいに起きた土石流災害で厚い泥流堆積物で覆われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、古墳、土坑、区画溝、土師器、須恵器、施釉陶器、石帯、鉄製馬具などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。集落の西側で検出された溝で区画された範囲は内部に施設が存在しないことや集落から大型掘立柱建物が検出され馬具が出土していることなどから牧と考えられている。遺跡地は古代群馬郡有馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
44. 鈴ノ宮遺跡(高崎市矢島町鈴宮)文献62
 井野川右岸の河岸段丘上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、瓦などがある。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれていたと考えられる。遺跡地は古代群馬岡郡島名郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
45. 中里見原遺跡(群馬郡榛名町中里見字原)文献61
 烏川の右岸の河岸段丘上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、基壇建物、土坑、鍛冶、門を伴う柵、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、硯、鉄器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれていたようである。遺跡に隣接する地点では里見庵寺が存在している。遺跡地は古代碓氷郡飽馬郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。
46. 松井田工業団地遺跡(碓氷郡松井田町人見字大宮)文献63
 碓氷川上流右岸の河岸段丘上、標高230メートル前後に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、古墳、水田、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、鉄製品などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代碓氷郡坂本郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

47. 仁田遺跡(碓氷郡松井田町入山字仁田)文献64

古代東山道の信濃国境に位置する碓氷峠と想定される入山峠下に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、舶載陶器などが出土している。住居は平安時代9世紀代のものが3軒検出されている。遺跡地は古代碓氷郡坂本郷に比定され、住居は遺跡地が古代東山道駅路沿いであることから山地での生業に携わる人のものと考えられている。

48. 五料平遺跡(碓氷郡松井田町五料字平)文献65

碓氷郡左岸の河岸段丘上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、円面硯、紡錘車、鉄器などが出土している。住居は古墳時代後期と平安時代(9c. 代)ものである。遺跡地は古代碓氷郡坂本郷に比定され、集落は周辺の状況から律令制成立期に編成されたものが拡大したと考えられる。

49. 豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡(高崎市豊岡町)文献66

鳥川と碓氷川との狭い若田丘陵先端部に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、土坑と礎石をもつ掘立柱建物、土師器、須恵器、施釉陶器、和同開珎などがある。住居は飛鳥時代から平安時代にかけてのものであるが発掘調査区内では欠落する時期がみられるが周辺の遺跡の状況などから周辺地域を含めると継続して営まれたと考えられる。遺跡地は古代片岡郡長野郷に比定され集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

50. 引間Ⅴ遺跡(高崎市上豊岡町引間)文献67

鳥川と碓氷川との狭い若田丘陵先端部に位置する。豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡とは近接した位置にある。引間遺跡は5次にわたり発掘調査が行われている。主な遺構は竪穴住居、古墳、道路、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、和同開珎などが出土している。住居は古墳時代後半から平安時代にかけて継続的に営まれている。和同開珎は古墳の石室内から出土している。遺跡地は古代片岡郡長野郷に比定され集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

51. 高崎城Ⅶ・Ⅸ三ノ丸遺跡(高崎市高松町)文献68

鳥川と碓氷川の合流地点の左岸の高崎台地に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器などがある。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれているようである。遺跡地は古代片岡郡佐没郷に比定され集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

52. 舟橋遺跡(高崎市上佐野町字舟橋)文献70

鳥川左岸の高崎台地に位置する。遺跡は数次、数カ所にわたって調査が行われている。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、白磁、紡錘車、などがある。住居は古墳時代後期と平安時代のものであるが下佐野舟橋遺跡では奈良時代のもも見つかっている。遺跡地は古代片岡郡佐没郷に比定され集落は律令制成立期に編成された地域と考えられる。

53. 下佐野遺跡(高崎市下佐野町長者屋敷他)文献71、72

鳥川の左岸で鳥川が鍋川と合流する手前で大きく蛇行することによって形成された微高地に位置する。この地は古来「佐野三家」の故知と考えられている所である。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、瓦、羽口、鉄器、紡錘車などがある。住居は古墳時代後期と奈良時代後半から平安時代にかけてで奈良時代前半台のものは見つからない。遺跡地は古代片岡郡佐没郷に比定され集落は律令制成立期に編成された地域と推定される。

54. 田端遺跡(高崎市本部町田端、阿久津町田端)文献69

高崎市の西部、鳥川と鮎川、鍋川の3河川によって形成された氾濫原に位置し、鍋川左岸の自然堤防上にある。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、井戸、製鉄遺構、水田、土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器、瓦、羽口、鉄器などがある。住居は住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれていたようである。遺跡地は古代多胡郡山宗郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

55. 山名戸矢遺跡(高崎市山名町)文献73

鮎川、鍋川の合流点付近の鍋川左岸の自然堤防上に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、羽口、鉄製品などがある。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営

まれていたようである。遺跡地は古代多胡郡山宗郷に比定され集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

56. 山名柳沢遺跡(高崎市山名町字下柳沢)文献74

観音山丘陵の東南部の中腹に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土師器、須恵器、施釉陶器、羽口、鉄器などがある。住居は41軒が調査されているが9世紀から10世紀にかけてである。遺跡地は古代多胡郡山宗郷に比定され集落は律令制崩壊後の開発に伴って形成されたと考えられる。

57. 黒熊中西遺跡(多胡郡吉井町黒熊字中西)文献75、76

鍋川右岸の上位段丘の北端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、礎石建物、鍛冶、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、瓦塔、鉄製品などが出土している。掘立柱建物や礎石建物群は段丘頂上部にまとまっており寺院を構成していた。この寺院は9世紀中葉から11世紀の年代観がおさえられている。住居は古墳時代後期や奈良時代のものも若干存在するが主体は寺院が存在した時期のものである。遺跡地は古代多胡郡武美郷に比定され、集落は寺院に付随するものである。

58. 矢田遺跡(多胡郡吉井町矢田)文献78

鍋川右岸の上位段丘の北端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、小鍛冶、土師器、須恵器、施釉陶器、紡錘車、鉄器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代(11世紀代)にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代多胡郡八田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

59. 長根羽田倉遺跡(多胡郡吉井町長根字羽田倉、神保字宮西)文献

鍋川右岸の上位段丘の北端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、祭祀、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、滑石製模造品などが出土している。集落は奈良時代から平安時代にかけてである。遺跡地は古代多胡郡織裳郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

60. 上栗須寺前遺跡(藤岡市上栗須)文献80

藤岡台地の縁辺に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、柵、溝、古墳、畠、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は古墳寺だから平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代緑野郡小野郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

61. 株木B遺跡(藤岡市上戸塚字株木)文献81

藤岡台地の縁辺に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代緑野郡小野郷に比定され、律令制成立期に編成されたと考えられる。

62. 中添遺跡(藤岡市中字堤添)文献82～86

鍋川と鳥川が合流する段丘面上に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代緑野郡小野郷に比定され、律令制成立期に編成されたと考えられる。

63. 岡之台Ⅱ遺跡(藤岡市岡之郷字岡之台)文献 群馬遺跡事典

藤岡台地の北に広がる沖積微高地の上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、小鍛冶、土師器、須恵器、施釉陶器、紡錘車、鉄器などが出土している。住居は古墳時代と平安時代のものである。遺跡地は古代緑野郡升茂郷に比定され、集落は律令制成立期に編成された集落が拡散したのと考えられる。

64. 福島曲戸遺跡(佐波郡玉村町)文献87

現利根川の右岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてのものである。遺跡地は古代那波郡韋田郷か佐味郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

65. 西善鍛冶屋遺跡(前橋市西善町)文献88

前橋台地に立地し、広瀬川の右岸に位置する。広瀬川は中世に流路を変えた利根川の旧河道と推定されている。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、溝、土坑、井戸、畠、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦、鉄器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてであるが調査区内では継続的な存続は見られない。遺跡地は古代那波

郡田後郷に比定され、集落の形成は律令制成立後の集落の拡大によるものと考えられる。

66. 戸神諏訪遺跡(沼田市町田町土塔原)文献89

戸神山の南麓、薄根川の右岸の河岸段丘上に位置する。主な遺構・遺物には寺院、竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、紡錘車などが出土している。寺院は区画された中に礎石建物が1棟存在するだけの村落寺院で9世紀中頃に建立され10世紀にかけて存続している。出土墨書土器から寺院名は「宮田寺」と想定される。住居は奈良時代後半から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代利根郡渭田郷に比定され、集落は律令制崩壊後の開発によると考えられる。

67. 町田上原遺跡(沼田市町田町上原)文献90

戸神山の南麓、薄根川の右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡は戸神諏訪遺跡の南で近接した位置関係にあり一連の遺跡と考えられる。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は平安時代のものである。遺跡地は古代利根郡渭田郷に比定され、集落は律令制崩壊後の開発によると考えられる。

68. 町田十二原遺跡(沼田市町田町十二原)文献91

戸神山の南麓、薄根川の右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡は戸神諏訪遺跡の南で近接した位置関係にあり一連の遺跡と考えられる。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代中頃から平安時代にかけてのものであるが主体は平安時代である。遺跡地は古代利根郡渭田郷に比定され、集落は律令制崩壊後の開発によると考えられる。

69. 村主遺跡(利根郡月夜野町上津字大原)文献92

利根川上流部の右岸、通称「名胡桃平」と呼ばれる扇状地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代の8世紀初頭から平安時代にかけて営まれている。遺跡地は古代利根郡名胡桃郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

70. 真壁向山遺跡(勢多郡北橘村真壁字向山・上大林)文献93

赤城山西南麓の台地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、古墳、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は5軒検出されているが皆平安時代のものである。遺跡地は古代勢多郡真壁郷に比定され、集落の形成は律令制成立後の集落の拡大によるものと考えられる。

71. 芳賀北部団地遺跡(前橋市小坂子町・嶺町、勝沢町)文献94

赤城山南麓の標高160～200メートルに位置する。主な遺構・遺物には古墳、竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的にみられるが地点で様相が異なる。遺跡地は古代勢多郡藤沢郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

72. 茶木田遺跡(前橋市上泉町)文献95

広瀬川低地帯の桃ノ木川右岸の微高地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、などが出土している。住居は調査された軒数が10軒と少ないが奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的にいとなまれているようである。遺跡地は古代勢多郡桂萱郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

73. 上西原遺跡(前橋市下大屋町)文献96

赤城山南麓、荒砥川左岸に位置する。主な遺構・遺物には基壇建物、掘立柱建物、区画溝竪穴住居、須恵器窯、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦塔、瓦、石帯、塑像などが出土している。遺跡は基壇建物を区画溝が囲む区画と掘立柱建物群を区画溝が囲む区画がみられ寺院と郡衙に伴う館が豪族居宅と考えられている。寺院は8世紀中頃から9世紀末にかけて存続していたようである。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定される。

74. 荒砥上ノ坊遺跡(前橋市二之宮町、荒子町)文献97、98

赤城山南麓、荒砥川左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品、馬具などが出土している。住居は古墳時代初頭から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

75. 荒砥下押切(前橋市荒子町)文献99

赤城山南麓、荒砥川左岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、

掘立柱建物、土坑、溝、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、紡錘車などが出土している。住居は古墳時代中期から後期にかけてと平安時代のものであるが周辺の遺跡の状況からこの地域では継続的に営まれていたと考えられる。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成された地域と考えられる。

76. 荒砥天之宮遺跡(前橋市二之宮町五分一)文献100

赤城山南麓末端の台地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溜井、水田、土師器、畿内産土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は古墳時代中期から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

77. 箕井中屋敷遺跡(前橋市箕井町)文献101

赤城山南麓、桃ノ木川右岸、旧利根川の広瀬川低地帯内の自然堤防上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、越州窯系青磁、鉄製品などが出土している。住居は古墳時代後期から平安時代にかけて継続的に営まれていたと考えられる。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

78. 二之宮千足遺跡(前橋市二之宮町千足・五分一)文献102

赤城山南麓末端の台地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、溜井、祭祀、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、木器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

79. 二之宮宮下東遺跡(前橋市二之宮町)文献103

赤城山南麓末端、宮川の左岸の低地から台地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、溜井、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、墨書土器、瓦、鉄製品、木器、12～13世紀の貿易陶磁器・渥美窯産陶器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

80. 二之宮宮東遺跡(前橋市二之宮町)文献104

赤城山南麓末端、江竜川の右岸の低地から台地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、水田、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけてほぼ継続的に営まれている。遺跡地は古代勢多郡芳賀郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

81. 宇通遺跡(勢多郡粕川村中ノ沢字大猿)文献 群馬県史資料編2

赤城山東南麓の中腹、標高650メートル付近、粕川支流の大猿川右岸に位置する。遺跡は平安時代9世紀後半から11世紀にかけての山岳寺院。主な遺構・遺物には基壇建物、八角円堂をはじめとする礎石建物、土師器、須恵器、施釉陶器、舶載陶磁器、金銅製女神小座像、経軸端などが出土している。遺跡地は古代勢多郡に比定される。郷の比定については遺跡が律令制崩壊後に建立されている寺院のため明確ではない。

82. 上植木光仙房遺跡(伊勢崎市三和町字光仙房)文献105

粕川左岸の大間々扇状地に位置する。主な遺構・遺物には古墳、竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は平安時代のものでそれ以前は墓域として利用されていた。遺跡は古代佐位郡反治郷に比定され、集落は周囲に展開する律令制成立期に編成されたものが拡大したと考えられる。

83. 上植木壺町田遺跡(伊勢崎市三和町)文献106

粕川左岸の大間々扇状地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄器などが出土している。住居は平安時代のものである。遺跡は古代佐位郡反治郷に比定され、集落は周囲に展開する律令制成立期に編成されたものが拡大したと考えられる。

84. 十三字塚遺跡(佐波郡境町伊与久)文献107

伊勢崎台地の東縁辺、中川の右岸に位置する。主な遺構・遺物には版築基壇建物、掘立柱建物群、柵、区画溝、竪穴住居、土師器、須恵器、施釉陶器(主に奈良三彩)、瓦、仏像片などが出土している。遺跡は遺構・遺物から寺院、官衙と考えられているが明確に官衙を裏付けるものはみられない。寺院は8世紀末から9世紀にかけて盛期があったよ

うである。遺跡地は古代佐位郡佐位郷に比定される。

85. 下淵名塚越遺跡(佐波郡境町下淵名)文献108

大間々扇状地の南西端に位置する。主な遺構・遺物には古墳群、竪穴住居、掘立柱建物、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は飛鳥時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代佐位郡淵名郷に比定され、淵名郷の中心的集落とみられる。集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

86. 西今井遺跡(佐波郡境町西今井字中道、新田郡新田町下田中字諏訪下)文献109、110

早川両側の微高地上に位置する。主な遺構・遺物は竪穴住居、掘立柱建物、土師器、須恵器、施釉陶器、土鍾、紡錘車、羽口などが出土している。住居は平安時代9世紀から11世紀にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代佐位郡淵名郷に比定され、集落は律令制崩壊後の開発によると考えられる。

87. 三ツ木皿沼遺跡(新田町小角田・下中田、尾島町世良田、境町三ツ木)文献111

道路拡幅に伴う発掘調査。早川の左岸、大間々扇状地II面の扇端低地内にある低台地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、祭祀、鉄生産、畠、古墳、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品、銅製片口鍋などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて検出されているが奈良時代に欠落する時期が見られ、平安時代以降は農耕集落から鉄生産にかかわる集落へと変貌したと考えられている。遺跡地は古代新田郡淡甘郷に比定され、集落は律令制崩壊後に再編成されたと考えられる。

88. 中江田ハツ縄遺跡(新田郡新田町中江田字ハツ縄)文献112

早川の左岸、木崎台地の南西部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代新田郡淡甘郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

89. 中江田原遺跡(新田郡新田町中江田)文献113

早川の左岸、木崎台地の南端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土師器、須恵器、墨書土器、施釉陶器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代新田郡淡甘郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

90. 中屋敷・中村田遺跡(新田郡新田町村田、市野井)文献114

大間々扇状地の先端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品、紡錘車などが出土している。住居は古墳時代6世紀から7世紀中葉と奈良時代8世紀中葉から平安時代10世紀前葉にかけて存在している。遺跡地は古代新田郡新田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

91. 村田本郷遺跡(新田郡新田町村田、小金井)文献115

大間々扇状地の先端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、「百」「大」の墨書土器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけてのものである。遺跡地は古代新田郡新田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

92. 中溝遺跡(新田郡新田町村田、小金井)文献115

大間々扇状地の先端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝、土坑、土師器、須恵器、施釉陶器、瓦などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけてのものである。遺跡地は古代新田郡新田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

93. 宮久保遺跡(山田郡笠懸町亜左美字宮久保)文献116

八王子丘陵西麓に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、土坑、井戸、溝、土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は平安時代9世紀から11世紀初頭にかけて営まれているが主体は10世紀代のものである。遺跡地は古代新田郡祝人郷に比定され、集落は律令制崩壊後の集落の拡大か開発によると考えられる。

94. 清水田遺跡(太田市茂木)文献117

渡良瀬川扇状地の扇端部に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、

土師器、須恵器、施釉陶器などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて240軒あまりが検出され継続的に営まれている。遺跡地は古代山田郡園田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

95. 小町田遺跡(太田市龍舞字小町田)文献118

渡良瀬川扇状地の扇端部、休泊台地の南西に広がる低地内の微高地に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝、土師器、須恵器、施釉陶器、木器(檜扇・火鑽臼・下駄・曲物容器・木皿・木樋)などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代山田郡園田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

96. 東長岡戸井口遺跡(太田市東長岡町)文献119

金山丘陵東南麓の低台地上に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、掘立柱建物、土坑、土師器窯、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品などが出土している。住居は奈良時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代山田郡園田郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

97. 高林築場遺跡(太田市高林南町)文献10

利根川中流域の左岸高林台地の南縁で台地を横断する八瀬川右岸に位置する。主な遺構・遺物には竪穴住居、井戸、土師器、須恵器、施釉陶器、鉄製品などが出土している。住居は古墳時代後期と平安時代のものが検出されているが奈良時代のものはみられない。遺跡地は古代邑楽郡長柄郷に比定され、集落は律令制崩壊期に拡散したものと考えられる。

98. 長根羽田倉遺跡(多野郡吉井町長根)文献79

簗川右岸の河岸段丘上に位置する。遺跡は長根遺跡群に含まれる。主な遺構・遺物には竪穴住居、祭祀、水田、土師器、須恵器、施釉陶器、滑石模造品などが出土している。住居は古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれている。遺跡地は古代多胡郡武美郷に比定され、集落は律令制成立期に編成されたと考えられる。

表2 県内出土緑釉陶器一覧

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考				
							9 C 前	9 C 後	9 C 後 10	10 C 代		9 C 前	9 C 後	10 C 前	10 C 後	10 C 代		11 C 代			
元総社寺田	1	V区1面5号溝 V区2面8号溝		44図 76図	0402 0444	椀 椀												陰刻花文			
元総社明神	2	VI区III層 VI区3河道 VI区3河道 VI区河道 VI区河道		第66図 第90図 第90図 第105図 第105図	1 46 47 12 13	椀 椀 椀 椀 段皿	○ ○ ○			○ 									他に14点出土		
	3	8 トレンチ		第20図	4	皿						○ ○									
	4	OTrW11溝		図未掲載						○ ○											
	5	27TrC-6G 27TrI-2G 27Tr YTrH-16G他 YTrT-2G YTrT-2G		Fig56 Fig56 Fig56 Fig56 Fig56 Fig56	36 37 38 39 40 41	椀 椀 瓶 段皿 稜椀 椀				○ ○ 					○ ○						
	6	29TrG-13G 29TrN-11G 29TrN-11G 29TrH-40G 29TrH-13G 29TrN-11G 29TrN-11G		Fig52 Fig52 Fig52 Fig52 Fig52 Fig52 Fig52	1 2 3 4 5 6 7	皿 輪花椀 椀 椀 椀 手付瓶 瓶									○ ○ ○ ○ 						
	7	C区表土		Fig19	26	椀															
	8	βTrD-57		Fig20	45	椀				○											
	堰越遺跡	9	39号土坑周辺 〃		第36図 第36図	16 17	椀 椀 椀				○						○ ○ ○				
	天神	10	15号住居 17号住居 22号住居 〃 遺跡内出土総数	10C. 3 10C. 4 9C. 3	第16図 第17図 第18図 第18図 表1	8 9 5 6	椀 椀 皿 皿									○ ○ ○ ○ 		椀103、皿15			
	前橋城遺跡 中尾	11	5号住居 他に56点	10C. 2	26P	19	椀				○										
		12	5次4号井戸	近世	第248図	1	皿							○						陰刻花文	
		13	C30号住居 C32号住居 〃 〃 C105号住居 E31号住居 遺構外	11C. 初 10C. 3	14P 14P 14P 14P	7 28 29 30	皿 椀 椀 皿								○ ○ ○ ○						
		吹屋 新保田中村前	14	SE09井戸	古代	第79図	1	椀									○				新段階、見込線刻
			15	100号住居 15号住居	10C. 2 10C. 1	図119 図180	1320 839	椀 皿									○ ○ ○				
	箱田古市前 鳥羽	16	5号住居	10C. 後	第20図	2										○				小片	
	20	E1号住居 E9号住居 FII6号住居 D405号溝 D405号溝 D289号溝 館跡溝 D区60D40 D区50D30 D区48D28 D区45D41	10C. 2 10C. 1 10C. 2 10C. 2 10C. 2 中世	145図 155図 253図 340図 340図 340図 350図 384図 384図 384図 384図	16 10 15 135 137 136 9 28 29 30 31	椀 稜椀 椀 椀 椀 稜椀 椀 稜椀 小椀 椀 椀	○ ○ ○ ○ <														

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考			
							9 C ・ 前	9 C ・ 後	9 C ・ 10	10 C ・ 代		9 C ・ 前	9 C ・ 後	10 C ・ 前	10 C ・ 後	10 C ・ 代		11 C ・ 代		
国分寺中間	17	F区		388図	8	椀														
		I 3号住居	9 C. 3	489図	5	椀								○						
		I 9号住居	10 C. 1	502図	6	椀									○					
		I 23号住居	8 C. 3								○									
		I 45号住居	8 C. 4								○									
		I 52号住居	9 C. 4	643図	56	椀		○												
		〃		643図	57	椀								○					陰刻花文	
		〃		643図	58	椀								○					遺物時期混在	
		18	J 6号住居	8 C. 3	16図	7	椀													
			J 34号住居	10 C. 2	67図	7	椀													
	J 95号住居		9 C. 後	233図	4	皿								○					遺物時期混在	
	K10号住居		10 C. 1	280図	9	輪花椀								○					陰刻花文	
	K27号住居		9 C. 3	314図	9	椀														
	K90号住居		10 C. 1	457図	10	稜椀									○					
	K122号住居		10 C. 1	544図	25	輪花椀								○						
	〃			544図	26	輪花椀								○						
	〃			544図	27	椀								○						
	K150号住居		11 C. 初	625図	4	段皿												○	陰刻花文	
	19	K157号住居	10 C. 1	638図	14	椀								○						
		〃		638図	15	皿						○								
		I 区工房関連		716図	58	椀														
		I 区遺構外		729図	152	段皿								○					9 C. 末	
		〃		729図	153	椀													小片	
		M63号住居	10 C. 1	PL61	12	?													小片	
		L73号住居	7 C. 3	154図	12	長頸壺か													小片	
		L77号住居	11 C. 初	169図	4	椀													小片	
		L87号住居	9 C. 1	184図	7	椀								○						
		L121号住居	10 C. 1	250図	51	椀G												○		
	21	〃		250図	52	段皿												○		
		〃		250図	53	椀H												○		
		〃		250図	54	椀												○		
		L163号住居	8 C. 2	PL108	8	?														
		L183号住居	10 C. 2	361図	27	皿									○					
		M第3台地		511図	3	皿									○					
		L第4台地		513図	47	椀										○				
		〃		513図	48	椀									○					
		K 9号溝	9 C. 3	660図	13	皿								○						
		F23号住居	10 C. 2	57図	13	椀								○					陰刻花文	
	21	F46号住居	10 C. 2	94図	1	椀?						○							口縁部打ち欠く	
		G 3号住居	10 C. 3	124図	2	稜椀								○						
G23号住居		10 C. 1	163図	4	椀								○					鳴海窯		
G25号住居		9 C. 4	167図	10	椀		○						○							
G49号住居		9 C. 3	203図	5	椀								○							
G59号住居		10 C. 1	221図	3	稜椀								○							
〃			221図	4	椀								○							
G61号住居		10 C. 1	228図	6	椀												○			
〃			228図	7	唾壺								○							
〃			228図	8	椀												○			
21	G71号住居	10 C. 3	252図	4	椀								○							
	〃		252図	5	椀								○							
	〃		252図	6	輪花椀								○							
	〃		252図	7	皿								○							
	G79号住居	7 C. 4	269図	4	椀					○										
	G134号住居	10 C. 2	271図	3	椀								○							
	G100号住居	9 C. 2	291図	18	輪花椀								○							

遺 跡	掲載 文献 No.	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都 近					東 海					備 考
							9 C 前	9 C 後	9 C 10	10 C 代	江	9 C 前	9 C 後	10 C 前	10 C 後	11 C 代	
		G114号住居	10C. 1	305図	4	椀											
		G136号住居	10C. 2	329図	9	稜椀							○				
		G156号土坑		475図	1	椀		○									
		G 4 号井戸	10C. 1	497図	13	?							○				
		G 6 号井戸	10C. 後	523図	4	稜椀							○				
		F10号溝	9 C. 4	565図	4	段皿							○				
		G26号溝	9 C. 4	577図	13	椀							○				
	22	D 1 号住居	10C. 2	22図	5	椀							○				
		〃		22図	6	稜皿							○				
		H98号住居	10C. 前	258図	2	椀										○	
		H157号住居	10C. 前	330図	2	椀										○	
		F区Ⅲ層		379図	5	稜椀							○				
		F区3号溝		379図	6	椀										○	
		G区表土		379図	7	椀							○				
		G区表土		379図	8	椀							○				
	23	C区21号住居	10C. 2	64図	12	椀							○				
		C区22号住居	10C. 2	67図	6	椀							○				
		C区29号住居	11C. 初	91図	5	椀							○				
		C区67号住居	11C. 初	156図	4	椀							○				
		〃		156図	5	椀			○				○				
		C区77号住居	9 C. 3	182図	12	椀							○				
		C区79号住居	10C. 2	195図	4	陶枕							○				
		C区80号住居	10C. 2	201図	2	椀				○							
		C区81号住居	10C. 2	188図	14	陶枕							○				
		C区108号住居	9 C. 後	218図	3	椀											
		C区99号住居	10C. 2	237図	5	椀							○				
		C区113号住居	10C. 2	262図	4	皿				○							
		C区135号住居	9 C. 3	282図	6	椀							○				
		C区150号住居	10C. 3	298図	3	椀							○				
		C区遺構外		474図	4	椀							○				
		C区遺構外		474図	5	椀							○				
		C区遺構外		474図	6	椀							○				
		C区遺構外		474図	7	椀							○				
		C区遺構外		474図	8	椀							○				
		C区遺構外		474図	9	椀							○				
		C区遺構外		474図	10	椀							○				
		C区遺構外		474図	11	椀							○				
		C区遺構外		474図	12	椀							○				
		C区遺構外		474図	13	椀							○				
		C区遺構外		474図	14	椀			○				○				
		C区遺構外		474図	15	椀							○				
		C区遺構外		474図	16	椀										○	
		C区遺構外		474図	17	椀					○						
		C区遺構外		474図	18	皿		○									
		C区遺構外		474図	19	皿							○				
		C区遺構外		474図	20	皿								○			
		C区遺構外		474図	21	椀							○				
		C区遺構外		474図	22	椀							○				
		C区遺構外		474図	23	椀							○				
		C区遺構外		474図	24	皿							○				
		C区遺構外		474図	25	皿							○				
	24	A区22号住居	8 C. 1	342図	6	段皿									○		
		A区188号住居	10C. 1	426図	5	輪花皿							○				
		B区51号住居	9 C. 後	550図	2	椀							○				
		B区115号住居	10C. 前	559図	4	椀							○				

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考							
							9 C・ 前	9 C・ 後	9 C・ 10	10 C・ 代		9 C・ 前	9 C・ 後	10 C・ 前	10 C・ 後	10 C・ 代		11 C・ 代						
山王廃寺		B区4号井戸		474図	5	輪花椀										○							9 C. 末～10 C. ○ 古段階、陰刻花文	
		A区遺構外		524図	16	椀						○					○							
		B区遺構外		513図	13	椀											○							
		B区遺構外		513図	14	稜椀												○						
		B区遺構外		513図	15	椀						○												
		B区遺構外		513図	16	皿												○						
		B区遺構外		513図	17	稜椀											○							
	25	A区88号住居	8 C. 1	262図	10	椀											○							
	26	I区61号土坑		563図	1	椀																○ 古段階、陰刻花文		
	27	C区21号住居	10 C. 2	191図	7	椀																		
		〃		191図	8	椀																		
		C区79号住居	10 C. 2	192図	7	椀												○						
		〃		192図	8	椀												○						
		〃		192図	9	椀												○						
		2区遺構外		147図	7	皿													○					
		28 鎮壇具埋納	10 C. 4	図番号無	2	椀														○				
		鎮壇具埋納		〃	3	椀														○				
		鎮壇具埋納		〃	4	椀														○				
		鎮壇具埋納		〃	5	段皿														○				
		鎮壇具埋納		〃	6	段皿														○				
		鎮壇具埋納		〃	7	皿														○				
		鎮壇具埋納		〃	8	皿														○				
		鎮壇具埋納		〃	13	水注瓶														○				
IV 5次 7次 国分境	29 III層(B以前)		図版18	1	椀		○															K14～K90古 脚部端部(双子瓶)		
	30 12号住居	9 C. 4	挿図28	12	椀																			
		N128E52III層	挿図30	2																				
		N116E44・48	〃																					
	31		挿図16																					
	32 B7号住居	10 C. 1	55図	6	手付瓶												○							
		C11号住居	9 C. 4	208図	35	合子瓶											○							
		C13号住居	9 C. 4	213図	10	皿?																		
		C46号住居	10 C. 2	281図	15	椀												○						
		C12号土坑		358図	15	段皿												○						
下東西 下東西・清水上	33 SJ14号住居	9 C. 4	98P	22	椀												○					古段階 底部陰刻花文		
		SJ14号住居		〃	23	椀												○						
		SJ102号住居	10 C. 1	240P	8	皿												○						
		SJ103号住居	10 C. 1	243P	4	椀													○					
		SJ108号住居	10 C. 代	254P	2	椀														○				
		SJ116号住居	10 C. 1	334P	6	椀														○				
	34 8号住居	10 C. 1	30図	9	段皿																			
		8号住居		図未掲載(8)		椀				○													尾北産、京都産か	
		8号住居		図未掲載(11)		椀					○													
		8号住居		図未掲載(12)		?												○						
		13号住居	10 C. 2	第38図	9	輪花椀												○						
		13号住居		図未掲載(10)		椀															○			
		13号住居		図未掲載(11)		椀												○						
		13号住居		図未掲載(12)		椀												○						
		14号住居	10 C. 3	図未掲載(20)		皿												○						
		15号住居	8 C. 2	図未掲載(15)		椀												○						
		17号住居	8 C. 2	図未掲載(11)		?												○						
		34号住居	8 C. 3	図未掲載(9)		椀												○						
		35号住居	10 C. 3	第63図	3	椀														○				
		36号住居	10 C. 3	第64図	3	香炉															○			
		48号住居	11 C. 1	図未掲載(4)		椀															○			
		48号住居	11 C. 1	図未掲載(5)		椀															○			

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考		
							9 C 前	9 C 後	9 C 10	10 C 代		9 C 前	9 C 後	10 C 前	10 C 後	10 C 代		11 C 代	
清里南部	35	52号住居	10 C. 2	第85図	6	椀								○			美濃産		
		52号住居	10 C. 2	図未掲載	(7)	椀								○			共伴遺物無		
		53号住居		図未掲載	(1)	椀			○										
		63号住居	9 C. 中	図未掲載	(3)	椀			○								混入品		
		64号住居	10 C. 1	第93図	6	椀				○									
		68号住居	9 C. 2	図未掲載	(3)	椀				○							混入品		
		91号住居	10 C. 2	図未掲載	(4)	稜椀						○							
		121号住居	10 C. 後	図未掲載	(2)	?							○				混入品		
		127号住居	9 C. 後	第159図	1	椀							○						
		127号住居	9 C. 後	図未掲載	(2)	椀									○		混入品		
		127号住居	9 C.	図未掲載	(3)	椀									○				
		127号住居	9 C. 後	図未掲載	(4)	椀							○				混入品		
		15号土坑		図未掲載	(1)	椀									○				
		17号土坑	10 C. 2	図未掲載	(4)	椀				○							混入品		
		17号土坑		図未掲載	(5)	椀							○						
		19号土坑	中世	図未掲載	(1)	椀								○			混入品		
		47号土坑		図未掲載	(1)	椀							○						
		176号土坑	中世	図未掲載	(2)	?							○				新段階、陰刻花文		
		185号土坑		第268図	1	皿							○						
		16号溝	中世	図未掲載	(3)	椀							○				新段階、陰刻花文		
		19号溝	中世	図未掲載	(1)	椀									○				
		145H35		図未掲載	(2)	?										○	新段階、陰刻花文		
		170G40		図未掲載	(1)	椀				○									
		170H05		図未掲載	(2)	F							○				新段階、陰刻花文		
		173H25		図未掲載	(2)	椀										○			
		175H45		図未掲載	(7)	椀								○			新段階、陰刻花文		
		185H30		図未掲載	(2)	椀				○									
		190H25		図未掲載	(1)	皿							○				新段階、陰刻花文		
		190H25		図未掲載	椀								○						
		197H35		第289図	1	椀				○							新段階、陰刻花文		
		194/195H33		図未掲載	(1)	椀				○									
		200H25		図未掲載	(1)	椀							○				新段階、陰刻花文		
		205H25		図未掲載	(1)	稜椀							○						
		遺構外 〃	36			図版 3	17											新段階、陰刻花文	
						図版 3	18												
						図版 3	19												
						第18図	63	皿											
		中島	36			第18図	64	椀										新段階、陰刻花文	
				5号住居		図未掲載													
		24号住居		図未掲載														新段階、陰刻花文	
				図未掲載															
清里陣馬	37	1号溝		210図 1	242	小椀					○				○				
		1号溝		210図 2	243	皿													
		1号溝		210図 3	244	小椀									○				
		1号溝		210図 4	245	皿								○					
		1号溝		210図 5	246	皿							○						
		1号溝		210図 6	247	椀							○						
		1号溝		210図 7	248	椀							○						
		1号溝		210図 8	249	椀													
		1号溝		210図 9	250	椀													
		1号溝		210図10	251	段皿								○					
		1号溝		210図11	253	輪花段皿								○					
		1号溝		210図12	252	椀								○					
		1号溝		210図13	254	椀									○				
		A地区		210図14	25	椀									○				
		B地区		210図15	2	椀									○				

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都 近				東 海					備 考		
							9 C ・ 前	9 C ・ 後	9 C ・ 10	10 C ・ 代	江	9 C ・ 前	9 C ・ 後	10 C ・ 前	10 C ・ 後		10 C ・ 代	11 C ・ 代
清里長久保	38	17号溝		210図16	31	椀												京都前山窯 京都前山窯
		2号井戸		210図17	10	椀												
		表採		210図18														
		耕116		210図19	21	椀												
長久保大畑・ 新田入口	39	耕114		210図20	42	椀												22
		1号溝		210図21	255	香炉												
		報告書未掲載		図未掲載														
		1号土墳墓	10C. 2	219図 1	1	輪花稜椀												
小池	40	1号土墳墓		219図 2	2	輪花皿												陰刻花文
		16号住居	9 C. 3	第227図	9	皿												
		遺構外G区		第360図	G—1	稜椀												
		H11号住居	10C. 2	第38図	128	椀												
冷水村東 金古十三町 青梨子金古境 菅谷石塚 雨壺	41	H22号住居	8 C. 後	第45図	263	皿												陰刻花文
		B区3号住居	9 C. 3	第84図	2	椀	○											
		1区6号住居	9 C. 3	第205図	11	皿	○											
		2号住居	9 C. 4	第9図	5	椀												
熊野堂	42	01号道路側溝		63P	1402	皿												陰刻花文
		63号住居		217図 2	2	段皿												
		遺構外		289図75	75	輪花皿												
		1号住居	10C. 前	第1図	1	椀												
融通寺	43	13号住居		第6図	1	椀												陰刻花文
		25号住居		第9図	1	椀												
		25号住居		第9図	2	段皿												
		26号住居	10C. 3	第9図	3	皿												
大八木屋敷	44	26号住居		第9図	4	段皿												陰刻花文
		95号住居	9 C. 3	第33図	4	椀												
		99号住居	9 C. 1	第35図	3	椀	○											
		114号住居	弥生	第39図	1	皿												
大八木屋敷	45	188号住居	10C. 3	第68図	3	皿												陰刻花文
		231号住居	10C. 2	第81図	5	椀												
		250号住居	10C. 4	第96図	5	椀												
		4区2井戸	10C. 1	第135図	12	段皿												
融通寺	46	199号土坑		第141図	1	段皿												陰刻花文
		遺構外		第154図	89	椀	○											
		遺構外		第155図	96	椀												
		遺構外		第155図	97	皿												
大八木屋敷	47	遺構外		第155図	98	椀												陰刻花文
		2区34住居	9 C. 3	第80図	616	椀	○											
		1区63住居	11C. 初	第130図	243	短頸壺												
		2区27号溝		第327図	2146	椀												
大八木屋敷	48	4区22住居	9 C. 1	第433図	1954	椀												陰刻花文
		5区22土坑	11C. 初	第706図	2310	平瓶												
		遺構外		第711図	2405	段皿												
		9号住居	9 C. 後	47図	7	稜椀												
芦田貝戸II 石神五反田II 舞台 清水 下芝五反田	49	14号住居	9 C. 4	69図	12—1	輪花椀											軟質	
		14号住居		69図	12—2	輪花皿												
		24号住居	10C. 1	105図	15	?												
		1号住居	10C. 1	図45	10	椀												
大八木屋敷	50	SK07土坑	10C. 1	図22		椀												軟質
		SK11土坑	10C. 3	図27	5	耳皿												
		SD01溝	10C. 後	図28	13	椀												
		43号住居	9 C. 4	第165図	43	稜椀												
大八木屋敷	51	52号住居	10C. 2	第192図	23	椀												軟質
		111号住居	10C. 1	第383図	13	椀												
		35号土坑	11C.	第506図	4	椀												

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考		
							9 C ・ 前	9 C ・ 後	9 〜 10	10 C ・ 代		9 C ・ 前	9 C ・ 後	10 C ・ 前	10 C ・ 後	10 C ・ 代		11 C ・ 代	
清水貝戸	52	41号土坑	9 C. 後	第507図	5	碗									○			内面見込み部凹線	
		遺構外		第563図	199	稜碗							○						
		遺構外		第563図	200	碗					○								
		遺構外		第563図	201	碗											○		
		遺構外		第563図	202	皿					○								
		遺構外		第563図	203	碗											○		
		遺構外		第563図	204	耳皿									○				
		遺構外		第563図	205	皿							○						
		遺構外		第563図	206	碗										○			
		遺構外		第563図	207	碗											○		
		遺構外		第563図	208	碗					○								
		遺構外		第563図	209	碗							○						
		遺構外		第563図	210	碗								○					
		遺構外		第563図	211	碗								○					
		遺構外		第563図	212	碗									○				
		遺構外		第563図	213	碗											○		
		遺構外		第563図	214	碗											○		
		遺構外		第563図	215	碗											○		
		遺構外		第563図	216	碗											○		
		遺構外		第563図	217	碗											○		
		遺構外		第563図	218	碗											○		
御堀	53	遺構外	11C. 前	第20図	1	碗	○										詳細不明		
沼南		遺構外		第20図	2	碗		○											
大久保A	54	1区8号土坑	10C. 4	第46図	98	段皿								○					
		47号住居		PL169	7	碗								○					
畑中	55	63号住居	10C. 2	第327図	1	碗								○					
		II区32号住居		卷頭写真	碗or皿	不明													
		II区100号住居		卷頭写真	不明	不明													
		II区G52層		卷頭写真	碗or皿	碗or皿													
		II区グリッド2層		卷頭写真	碗or皿	碗or皿													
		II区グリッド2層		卷頭写真	碗or皿	碗or皿													
		II区グリッド2層		卷頭写真	碗or皿	碗or皿													
有馬久宮間戸	56	3号住居	11C. 初	第8図	7	皿								○					
有馬		1号遺構墓坑		第16図	1	碗								○					
有馬条里		45G—02IIb		514図	9	碗					○								
		164住居		514図	10	碗					○								
		G区		514図	11	碗					○								
		遺構外		514図	12	碗							○						
		189住居		514図	13	稜碗							○						
		115住居		514図	14	碗		○											
半田中原南原	59	115住居	10C. 4	514図	15	碗													
		105号住居		218P	8	段皿								○					
		128号住居			1	折縁皿								○					
鈴の宮	60	207号住居	10C. 3	295P	7	小皿								○					
		122号住居		第400図	52	碗	○												
中里見原	61	本文中															緑彩数点 陰刻花文		
松井田工業団地	63	D—1号住居	8C. 4	図134	3	碗	○												
		D—51号住居		図175	6	皿								○					
仁田	64	(7住周辺)	9C. 4	第40図	5	碗													
		(2住周辺)		第40図	6	鉢													
五料平	65	(E4・5区)		第40図	7	段皿													
豊岡後原	66	遺構外		本文中		碗											混入品		
		I—1号住居	10C. 3	図19	32	碗	○												
		I—6号住居	7C. 3	図29	24	碗	○												

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都 近					東 海					備 考
							9 C・前	9 C・後	9 C・10	10 C・代	江	9 C・前	9 C・後	10 C・前	10 C・後	11 C・代	
引間V 高崎城三ノ丸 舟橋 下佐野	67	I—22住居	9 C. 3	図61	19	椀	○										9 C. 2 遺物混在 〃 口縁部小片 口縁部打ち欠く
		I—43住居	10 C. 2	図97	13	椀							○				
		I—44住居	10 C. 2	図98	2	椀							○				
		I—53住居	10 C. 3	図109	23	椀									○		
		II—112住居	10 C. 2	図174	13	椀		○									
		II—112住居	〃	図174	14	皿							○				
		I—92土坑	10 C. 前	図199	3	椀							○				
田端	68	3号土坑	10 C. 前	第25図	195	皿											奈良三彩緑釉単彩 299P観察表
		遺構外185—SH13		第20図	87	皿								○			
		表土		第342図	651	瓶											
		IA区85号住居	10 C. 2	第500図	2461	椀								○			
		IA区89号住居	10 C. 1	第513図	2532	椀								○			
		5区7A号住居	10 C. 1	第284図	1023	稜皿								○			
山名戸矢 山名柳沢 黒熊中西	73	B区7住居	10 C. 3	第339図	5	椀								○			古段階、陰刻花文
		B区127土坑		第796図	20	小壺											
		B区遺構外		図未掲載	651	皿or椀											
		86号住居	10 C. 後	第18図	1	皿								○			
		11号住居	10 C. 1	第97図	5	椀	○										
		東斜面		第116図	1	皿											
		グリッド		268図	13	段皿									○		
矢田 長根羽田倉	78	99号住居	10 C. 1	第32図	7	稜椀							○				緑彩 底部片
		93号住居		第337図	32	椀								○			
上栗須寺前 株木B 中堤添	80	4区旧河道 土坑		第391図	764	段皿							○				数十個体
				第137図	154	椀										○	
				口絵		皿	○										
				〃		稜椀								○			
				〃		椀										○	
				口絵		皿							○				
				〃		椀							○				
岡之台II	82	藤岡市史		口絵		皿							○				古段階、秀品
				〃		椀・皿								○			
				〃		椀											
				〃		椀											
				〃		椀											
				〃		椀											
				〃		椀											
福島曲戸 西善鍛冶屋	87	現説パンフ				椀・皿											本文中
		10号住居	10 C. 2	第19図	7	椀										○	
戸神諏訪 町田上原 町田十二原 村主	89	81号住居	10 C. 1	P 98	22	皿								○			本文中
		13号住居	10 C. 1	第29図	1	皿		○									
		16号住居	10 C. 3	57P													
		8号住居	10 C. 1	第67図	23	椀									○		
真壁向山V 芳賀北部団地	93	1号住居	9 C. 4	第3図	3	椀							○				古段階、秀品
		1号住居		第3図	4	輪花皿											
		H—54号住居	10 C. 2	図79	2	椀											
		H—58号住居	10 C. 2	図84	6	小椀								○			
		H—130号住居	10 C. 2	図175	1	椀								○			
		H—8号住居	9 C. 3	第10図	8	椀	○										
		基壇建物		第10図	17	小瓶							○				
茶木田 上西原 荒砥上ノ坊	96	方形区画内		第39図	7	椀	○										住居年代灰釉陶器
		2区8住居	10 C. 3	第60図	1577	輪花皿					○						
		2区15住居	10 C. 2	第65図	1595	椀?											
		3区5土坑		第73図	1338	椀											
		遺構外		第98図	19	椀					○						
		46号住居	11 C. 初	172図	2	輪花皿?									○		

遺 跡	掲載 文献 No	遺 構	時 期	挿図番号	遺物番号	器 種	京 都				近 江	東 海					備 考		
							9 C ・ 前	9 C ・ 後	9 C ・ 10	10 C ・ 代		9 C ・ 前	9 C ・ 後	10 C ・ 前	10 C ・ 後	10 C ・ 代		11 C ・ 代	
筑井中屋敷 二之宮千足 二之宮宮下東 二之宮宮東 宇通	101	24号住居	9 C. 3 奈良平安 〃 平安 〃 〃 〃	第38図	1	碗									○				詳細不明
	102	遺構外		第280図	9	段皿								○					
	103	3区13・14層		第194図	3	唾壺								○					
		3区14層		第195図	47	手付瓶								○					
		5区溝		第302図	1	碗								○					
		〃	〃	〃	2	碗				○									
		〃	〃	〃	3	碗								○					
	104	J 157住居	10 C. 1	199P	1869	稜碗								○					
		遺構外		225P	1867	皿													
		遺構外		225P	1878	碗													
上植木光仙房	105	26号溝 81号住居 6号古墳	9 C. 3	口絵 口絵 口絵		皿 皿 皿	○ ○ ○											緑彩	
上植木壱町田 十三宝塚 下淵名塚越	106	地下式土坑		第226図	2	碗											○		
	107	K—15		第301図	6	不明													
	108	遺構外	第713図	9	碗														
		遺構外	〃	10	碗														
遺構外		〃	11	碗															
西今井	109	SB061住居	10 C. 2	Fig107	0306	碗													
		SB178住居		Fig178	1138	碗													
		SB179住居		Fig206	1164	四足壺													
西今井II	110	AH—3住居	10 C. 2	10P	2	皿									○				
三ツ木皿沼 中江田八ツ縄 中江田原 中屋敷・中村田 村田本郷 中溝 宮久保遺跡	111	8号住居	10 C. 3	第103図	8	水注										○		緑彩 10点 1点	
		30号住居	10 C. 3	第137図	5	段皿								○					
		77号住居	10 C. 3	第224図	9	段皿											○		
		70号土坑	10 C. 前	第264図	1	皿										○			
	112	1区18号住居	10 C. 1	第52図	6	碗								○					
	112	E—60号溝	10 C. 前	第134図	40	皿										○			
	113	遺構外		第543図	9	輪花碗								○					
	114			口絵		碗・皿								○					
	115			口絵		碗or皿													
	116	6号住居	10 C. 1	第22図	8	碗								○					
太田東部 (清水田) 小町田 東長岡戸井口	117	SB037住居	10 C. 3	第171図	202	碗									○				
		SB076住居	10 C. 1	第176図	338	碗								○					
		〃	〃	第176図	339	碗													
		〃	〃	第176図	340	皿											○		
		遺構外A—24		第177図	391	碗										○			
		遺構外A—24		第177図	392	碗										○			
		遺構外		第177図	393	碗										○			
	118	31号住居	10 C.	第245図	15	碗										○	10 C. 末		
	119	第107号住居	9 C. 4	246図	5	?												小片	
		9区23号井戸		584図	14	碗											小片		
9区23号井戸		〃		15	皿											小片			
高林築場	120	45号住居	9 C. 4	第21図	7	碗								○					

緑釉陶器出土遺跡文献

1. 根岸 仁 1993「元総社寺田遺跡Ⅰ」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
2. 藤巻幸男 1996「元総社寺田遺跡Ⅲ」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
3. 岸田治男 1982「元総社明神遺跡Ⅰ」前橋市教育委員会
4. 加部二生 1987「元総社明神遺跡Ⅴ」前橋市埋蔵文化財調査団
5. 前原 豊 1990「元総社明神遺跡Ⅷ」前橋市埋蔵文化財調査団
6. 井上敏夫・鈴木雅浩 1991「元総社明神遺跡Ⅸ」前橋市埋蔵文化財調査団
7. 狩野吉弘・大山知久 1993「元総社明神遺跡Ⅺ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
8. 新保一美 1994「元総社明神遺跡Ⅻ」前橋市埋蔵文化財調査団
9. 折原洋一 1988「堰越遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
10. 伊庭彰一・折原洋一 1987「天神遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
11. スナガ環境測定株式会社埋蔵文化財調査部 1989「天神Ⅱ遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団
12. 藤巻幸男・片野雄二他 1999「前橋城遺跡Ⅱ」群馬県教育委員会文化財保護課
13. 坂口 一 1984「中尾遺跡—遺物編—」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
14. 大江正行 1982「元島名B・吹屋遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
15. 友広哲也 1992「新保田中村前遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
16. 桜岡正信・石守 晃・大江正行 1995「箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
17. 綿貫邦男・唐沢至朗 1986「鳥羽遺跡G・H・Ⅰ区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
18. 綿貫邦男 1988「鳥羽遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
19. 綿貫邦男 1990「鳥羽遺跡L・M・N・O区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
20. 綿貫邦男 1992「鳥羽遺跡A・B・C・D・E・F区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
21. 木津博明・桜岡正信 1987「上野国分僧寺・尼寺中間地域(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
22. 木津博明・桜岡正信 1988「上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
23. 木津博明・桜岡正信 1990「上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
24. 木津博明・桜岡正信 1991「上野国分僧寺・尼寺中間地域(5)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
25. 木津博明・桜岡正信 1992「上野国分僧寺・尼寺中間地域(6)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
26. 友広哲也・木津博明・桜岡正信 1992「上野国分僧寺・尼寺中間地域(7)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
27. 木津博明・桜岡正信 1992「上野国分僧寺・尼寺中間地域(8)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
28. 梅沢重昭 1964「緑釉水瓶とその伴出遺物」『群馬県立博物館官報』6
29. 石川克博他 1978「山王廃寺跡第4次発掘調査概報」前橋市教育委員会
30. 富沢敏弘 1979「山王廃寺5次発掘調査報告書」前橋市教育委員会
31. 田口正美 1982「山王廃寺7次発掘調査報告書」前橋市教育委員会
32. 麻生敏隆 1990「国分境遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
33. 神谷佳明 1987「下東西遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
34. 麻生敏隆 1998「下東西・清水上遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
35. 池田茂則・唐沢保之・川崎 始 1980「富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群」前橋市教育委員会
36. 唐沢保之 1980「中島遺跡発掘調査概報」前橋市教育委員会
37. 中沢 悟 1981「清里・陣馬遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
38. 相京建史 1986「清里・長久保遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
39. 田村公夫 2000「長久保大畑遺跡 新田入口遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
40. 若狭 徹 1992「小池遺跡」群馬町教育委員会
41. 飯森康広 1998「冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
42. 武部喜充 1995「青梨子金古境遺跡」県央第一水道遺跡調査会
43. 坂井 隆 2001「小八木志志貝戸遺跡群2小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡Ⅱ古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
44. 坂井 隆 1984「熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨壺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
45. 飯塚卓二 1990「熊野堂遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
46. 大西雅広 1991「融通寺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
47. 高島英之 1995「大八木屋敷遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
48. 田村 孝・小野和之・金井潤子 1980「芦田貝戸Ⅱ」高崎市教育委員会
49. 田村 孝 1986「菊池遺跡群(Ⅱ) 石神・五反田(Ⅱ)遺跡」高崎市教育委員会
50. 飯塚恵子・金子智一 1984「舞台(Ⅱ)・清水(Ⅱ)」高崎市教育委員会
51. 神谷佳明 1999「下芝五反田遺跡—奈良・平安時代以降編—」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
52. 飯塚邦守 2001「清水貝戸遺跡」榛東村教育委員会
53. 新藤 彰 1985「御堀遺跡」榛東村教育委員会
54. 松村和男 2000「沼南遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
55. 飯塚 誠 1986「大久保A遺跡」吉岡町教育委員会
56. 瀧野 巧 2000「畑中遺跡」吉岡町教育委員会
57. 小林良光 1997「有馬宮間戸遺跡」渋川市教育委員会
58. 友広哲也 1989「有馬遺跡Ⅰ—奈良・平安時代編—大久保B遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
59. 坂口 一 1991「有馬条理」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
60. 大塚昌彦 1994「半田中原・南原遺跡」渋川市教育委員会
61. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999「ヒストリア榛名 北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査終了記念・かみつけの里博物館第4回特別展図録」
62. 飯塚恵子・五十嵐至・田口一郎 1978「鈴ノ宮遺跡」高崎市教育委員会
63. 田口 修 1990「松井田工業団地遺跡」松井田町教育委員会
64. 大江正行 1990「仁田遺跡・暮井遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
65. 福山俊彰・松田政基他 1997「五料平遺跡・五料野ケ久保遺跡・五料稲荷谷戸遺跡」松井田町遺跡調査会
66. 関口 修・池田 敬 1998「豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡」高崎市教育委員会
67. 神戸聖語・矢部博文・武部喜充 1997「引間V遺跡」高崎市遺跡調査会
68. 中村 茂 1994「高崎城三ノ丸」高崎市教育委員会
69. 下城 正・関 晴彦 1988「田端遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
70. 下城 正・女屋和志雄・井川達雄・大西雅広 1989「舟橋遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
71. 女屋和志雄 1989「下佐野遺跡Ⅰ地区・寺前地区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
72. 井川達雄 1986「下佐野遺跡Ⅱ地区」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
73. 間宮政光 1993「山名戸矢遺跡」高崎市遺跡調査会
74. 神戸聖語・松田政基・竹部喜充 1998「山名柳沢遺跡」高崎市遺跡調査会

75. 須田 茂 1992「黒熊中西遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
76. 山口逸弘 1994「黒熊中西遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
77. 山口逸弘 1996「黒熊八幡遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
78. 関口功一 1991「矢田遺跡II」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
79. 鹿沼栄輔 1990「長根羽田倉遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
80. 岸田治男 1993「上栗須寺前遺跡群I」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
81. 丸山治雄 1991「株木B遺跡」藤岡市教育委員会
82. 藤岡市教育委員会 2000「藤岡市史 通史編 原始・古代 中世」
83. 藤岡市教育委員会 1993「年報8」
84. 藤岡市教育委員会 1998「年報13」
85. 藤岡市教育委員会 1990「年報5」
86. 藤岡市教育委員会 1991「年報6」
87. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999「福島曲戸遺跡・福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡 現地説明会資料」
88. 長谷川一郎 1995「西善鍛冶屋遺跡」西善鍛冶屋遺跡調査会
89. 新倉明彦 1990「戸神諏訪遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
90. 小池雅典 1996「町田上原遺跡・岡谷十二原遺跡・岡谷西原遺跡」沼田市教育委員会
91. 小池雅典 1993「沼田北部地区遺跡群II(町田十二原遺跡)」沼田市教育委員会
92. 中沢 悟 1986「大原II遺跡・村主遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
93. 長谷川福次 1995「真壁向山遺跡V」北橋市教育委員会
94. 井野誠一 1994「芳賀北部団地遺跡I—古墳・奈良・平安時代編—」前橋市教育委員会
95. 唐沢保之 1985「茶木田遺跡」前橋市教育委員会
96. 松田 猛 1999「上西原遺跡」群馬県教育委員会
97. 小島敦子 1997「荒砥上ノ坊遺跡III」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
98. 小島敦子 1998「荒砥上ノ坊遺跡IV」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
99. 菊池 実 1999「荒砥上押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
100. 徳江秀夫 1988「荒砥天之宮遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
101. 大西雅広 1997「笥井中屋敷遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
102. 大西雅広 1992「二之宮千足遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
103. 大西雅広 1994「二之宮宮下東遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
104. 坂井 隆 1994「二之宮宮東遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
105. 飯塚 誠 1988「上植木光仙房遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
106. 飯塚 誠 1988「書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木沓町田遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
107. 大江正行 1992「史跡十三宝塚遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
108. 飯田陽一・原 雅信・大木紳一郎 1991「下淵名塚越遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
109. 石塚久則 1986「西今井遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
110. 宮塚義人 1991「西今井II遺跡・諏訪下遺跡・川久保遺跡」新田町教育委員会
111. 小島敦子・洞口正史 2000「三ツ木血沼遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
112. 松井龍彦 1995「中江田ハツ縄遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
113. 木暮仁一 1997「中江田遺跡群 中江田宿通遺跡・中江田本郷遺跡・

- 中江田原遺跡・中江田A遺跡」新田町教育委員会
114. 岡本範之 1997「中屋敷・中村田遺跡」新田町教育委員会
 115. 小宮俊久・小宮 豪 1993「新田東部遺跡群」新田町教育委員会
 116. 若月省吾 1989「笠懸村宮久保遺跡」笠懸村教育委員会
 117. 石塚久則 1985「太田東部遺跡群」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 118. 小島敦子 1984「小町田遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 119. 木津博明・大江正行・岩崎泰一 1999「東長岡戸井口遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 120. 島田孝雄 1994「市内遺跡X」太田市教育委員会

註

- 1) 記載されている沼田市より出土の緑釉陶器については現在確認できない
- 2) 前川1987の「胆沢城東方官衙南地区出土遺物群」で黒笹14号窯式期の緑釉陶器の出土について記されている。
- 3) 郡域については木津1995付図をもとにして加筆して作成した。
- 4) 古代甘楽郡域での大規模開発は鐮川右岸の丘陵部で上信越道に伴う発掘調査が行われているが、古代の集落が存在するとみられる鐮川の下部河岸段丘での発掘調査は少ない。
- 5) 奈良三彩は中之条町伊勢町地区遺跡群天神遺跡の建物遺構群から出土している。天神遺跡では総柱掘立柱建物などもみつかっており官衙の可能性が指摘されている。
- 6) 熊倉遺跡は上越国境に近い山深い所に立地しており能登 健氏は律令制外の「山棲み集落」と位置付けている。
- 7) 最近、井出郷域内とみられる遺跡の調査で多量の緑釉陶器が出土したことを群馬町教育委員会の清水 豊氏よりご教示を受けた。
- 8) 栃木県考古学会1995の群馬県事例で加部二生氏は土坑墓の可能性を示唆している。
- 9) 密教法具については小山友孝氏より御教授をいただいた。
- 10) 山口1992「農耕生活と馬の飼育」の『水田開発の様相』
- 11) 「現説資料 小八木志志貝戸遺跡」、発掘調査は筆者も担当したが区画溝の内部に方形の掘方をもつ柱穴の掘立柱建物群が存在するが建物は位置がコの字ではなく方形に配置され儀式を執り行う広場の区画が存在していない。
- 12) 古代群馬郷と桃井郷の郷境に位置している。
- 13) 高橋1999で土器の数量的分析を行い平安京での緑釉陶器は高級食膳具と言うよりかなり都市的食膳具として使用されていたことを指摘されている。

引用・参考文献

- 有賀祥隆 2000「密教美術の世界 密教法具」『日本密教』春秋社。
- 飯塚 誠 1998「耳皿について」『上植木光仙房遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 池田政志 2000「高浜向原遺跡 神戸宮山遺跡 神戸岩下遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 井上喜久夫 1998「畿外遺跡にみる三彩・緑釉陶器」『図録 日本の三彩と緑釉陶器—天平に咲いた華—』愛知県陶磁資料館・五島美術館。
- 岡崎譲治 1976「密教法具」『仏教考古学講座』第5巻 雄山閣出版。
- 上村和直 1994「平安京周辺の緑釉陶器生産」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 木津博明 1995「群馬県の古代官衙とその周辺」『シンポジウム3 地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会。
- 桐原 健 1976「土壇出土の緑釉陶器の性格」『信濃』第38巻第9号 信濃史学会。
- 群馬県史編さん委員会 1991『群馬県史 通史編2 原始古代2』群馬県。
- 斉藤孝正 1990「尾張・美濃における緑釉陶器生産」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 斉藤孝正 1994「東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心に—」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 斉藤孝正 1998「猿投窯黒笹地区における緑釉陶器生産の展開」『檜崎彰一先生古希記念論文集』。

- 齊藤孝正 2000「越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器」日本の美術No409 至文堂。
- 笹山晴生 1992「『東人』と東北経営」『新版 古代の日本 関東』8 角川書店。
- 高橋照彦 1994「近江産緑釉陶器をめぐる諸問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第57集。
- 高橋照彦 1994「東国の施釉陶器」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 高橋照彦 1995「平安期緑釉陶器生産の展開と終焉」『国立歴史民俗博物館研究報告』第60集。
- 高橋照彦 1995「緑釉陶器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会 遍 真陽社。
- 高橋照彦 1997「『瓷器』「茶碗」「葉碗」「様器」考—文献にみえる平安時代の食器名を巡って」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集。
- 高橋照彦 1997「出土文物からみた平安時代の儀礼の場とその変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第74集。
- 高橋照彦 1998「平安時代の緑釉陶器生産」『シンポジウム日本の三彩と緑釉陶器—天平に咲いた華—』愛知県陶磁資料館。
- 高橋照彦 1999「土器の流通・消費からみた平安京とその周辺」『国立歴史民俗博物館研究報告』第78集。
- 田口昭二 1982「美濃窯の灰釉陶器と緑釉陶器」(特集越州窯青磁と平安時代の緑釉・灰釉陶器)『考古学ジャーナル』211号。
- 巽淳一郎 1982「古代窯業生産の展開—西日本を中心として—」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所。
- 巽淳一郎 1985「陶磁(原始・古代編)」『日本の美術』No235 至文堂。
- 巽淳一郎 1990「旧平城京出土の緑釉陶器生産について」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 巽淳一郎 1994「施釉陶器の研究の現状と課題」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 巽淳一郎 1998「都城における施釉陶器の変遷」『図録日本の三彩と緑釉陶器—天平に咲いた華—』愛知県陶磁資料館・五島美術館。
- 田中広明 1994「関東地方の施釉陶器の流通と古代社会」『研究紀要』第11号(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団。
- 田中広明 1997「(6)灰釉陶器」『中堀遺跡』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団。
- 田中広明 1997「3 中堀遺跡の特色と歴史的 성격」『中堀遺跡』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団。
- 田中広明 1998「古代東国と豪族の家」『研究集会古代豪族居宅の構造と類型』奈良国立文化財研究所。
- 寺島孝一 1979「石作窯跡の発掘調査」『古代文化』VOL31—11 財団法人古代学協会。
- 栃木県考古学会 1995「東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—」東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備会。
- 檜崎彰一 1972「三彩 緑釉」『日本陶磁全集』5 中央公論出版。
- 檜崎彰一他 1983「愛知県猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告(Ⅲ)」愛知県教育委員会。
- 檜崎彰一 1990「三彩 緑釉 灰釉」『日本陶磁大系』5 平凡社。
- 檜崎彰一 1998「日本における施釉陶器の成立と展開」『図録日本の三彩と緑釉陶器—天平に咲いた華—』愛知県陶磁資料館・五島美術館。
- 費 元洋 1996「二川窯における緑釉陶器生産の展開」『三河考古』第9号。
- 原 明芳 1989「2 SK128をめぐる問題」『吉田川西遺跡』(財)長野県埋蔵文化財センター。
- 原 明芳 1989「第2節吉田川西遺跡における食器の変容」『吉田川西遺跡』(財)長野県埋蔵文化財センター。
- 原 明芳 1990「信濃の緑釉陶器について」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 原 明芳 1994「信濃の施釉陶器」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 日永伊久男 1990「近江の緑釉陶器生産について」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 日永伊久男 1994「近江の緑釉陶器生産」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 平尾政幸 1990「平安京右京三条三坊」(財)京都市埋蔵文化財研究所。
- 平尾政幸 1990「平安京の緑釉陶器生産」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 平尾政幸 1994「施釉陶器の変質と波及」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3施釉陶器』古代の土器研究会。
- 平尾政幸 1998「平安時代の緑釉陶器の分布とその性格」『シンポジウム日本の三彩と緑釉陶器—天平に咲いた華—』愛知県陶磁資料館。
- 前川 要 1987「平安時代における東海系緑釉陶器の使用形態について」『中近世土器の基礎研究』Ⅲ 日本中近世土器研究会。
- 前川 要 1989「平安時代における緑釉陶器の編年的研究」『古代文化』VOL41—5 (財)古代学協会。
- 前川 要 1989「平安時代における施釉陶磁器の様式論的研究(上)—様式の形成とその歴史的背景」『古代文化』VOL41—8 (財)古代学協会。
- 前川 要 1989「平安時代における施釉陶磁器の様式論的研究(上)—様式の形成とその歴史的背景」『古代文化』VOL41—10(財)古代学協会。
- 松村和男 1999「平安時代の土坑について」『沼南遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 松本市教育委員会 1988「三間沢川左岸遺跡(Ⅰ)」。
- 三浦京子 1998「群馬県における平安時代後期の土器様相—灰釉陶器を中心として」『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 山口英男 1992「農耕生活と馬の飼育」『新版古代の日本 関東』8 角川書店。
- 水谷寿克 1990「畿内の緑釉陶器生産について」『シンポジウム緑釉陶器の生産と消費』斎宮歴史博物館・三重県埋蔵文化財センター。
- 百瀬正桓 1986「平安時代の緑釉陶器—平安京近郊の生産窯について—」『中近世土器の基礎研究』Ⅱ 日本中近世土器研究会。
- 依田亮一 1998「神奈川県出土緑釉陶器の諸様相—器種・産地別分類と年代的位罫付けの再検討—」『神奈川考古』34号 神奈川考古同人会。
- 綿貫邦男・桜岡正信・神谷佳明1992「群馬県における灰釉陶器の様相について(Ⅰ)」『研究紀要』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 拙稿 1998「第3節下東西清水上遺跡出土の施釉陶器について」『下東西清水上遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 拙稿 1999「2. 出土施釉陶器について」『下芝五反田遺跡—奈良平安時代以降編—』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団。
- 拙稿 1999「施釉陶器について」『上西原遺跡』群馬県教育委員会。